

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄						備考			
計画の区分	学部設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクジン ダイブンカガクエン 学校法人 大東文化学園									
フリガナ大学の名称	ダイブンカガク 大東文化大学 (Daito Bunka University)									
大学本部の位置	東京都板橋区高島平1丁目9番1号									
大学の目的	本大学は、建学の精神に基づき、学問の理論と応用を教授・研究して真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	新設学部では、現代社会に内在する諸問題に対して適切な距離をはかりつつその本質を認識し、本学がこれまで教授してきた社会科学と連携しながら、社会学理論と社会調査を用いて実証的かつ実践的に社会学を学ぶ。そして、問題の発見、多様性への理解、理論的思考、実証的調査の手法を備えた人材を育成し、社会を構想・デザインする研究やそこから導出された提案等を通じて広く社会に貢献することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	社会学部 [Faculty of Sociology] 社会学科 [Department of Sociology] 計	4年	200人	—年次人	800人	学士 (社会学)	平成30年4月 第1年次	(1,2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3,4年次) 東京都板橋区高島平 1-9-1		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	文学部歴史文化学科 (100) (平成29年4月届出) スポーツ・健康科学部看護学科 (100) (平成29年3月認可申請) 環境創造学部環境創造学科(廃止) (△165) ※平成30年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	社会学部 社会学科	講義	演習	実験・実習	計					
		196科目	43科目	22科目	261科目	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設	社会学部	社会学科	9 (8)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	20 (19)	0 (0)	107 (97)
		文学部	歴史文化学科	4 (3)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	127 (91)
		スポーツ・健康科学部	看護学科	8 (7)	6 (5)	6 (4)	6 (5)	26 (21)	7 (2)	78 (66)
			計	21 (18)	16 (15)	12 (10)	6 (5)	55 (48)	7 (2)	— (—)
	既設	文学部	日本文学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	201 (201)
			中国文学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	216 (216)
			英米文学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	148 (148)
		教育学科	8 (8)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	100 (100)	
		書道学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	163 (163)	

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
既 員 組 織 の 概 要	経済学部 社会経済学科	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	91 (91)
	現代経済学科	11 (11)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	86 (86)
	外国語学部 中国語学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	155 (155)
	英語学科	11 (11)	8 (8)	8 (8)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	199 (199)
	日本語学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	151 (151)
	法学部 法律学科	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	104 (104)
	政治学科	11 (11)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	89 (89)
	国際関係学部 国際関係学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	78 (78)
	国際文化学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	79 (79)
	経営学部 経営学科	21 (21)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	88 (88)
	スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	76 (76)
	健康科学科	10 (10)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	3 (3)	65 (65)
	東洋研究所	2 (2)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	書道研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	教職課程センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	36 (36)
国際交流センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	
分	計	171 (171)	79 (79)	45 (45)	7 (7)	302 (302)	3 (3)	— (—)
要	合 計	192 (189)	95 (94)	57 (55)	13 (12)	357 (350)	10 (5)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	180 (180)		59 (59)		239 (239)		
	技 術 職 員	2 (2)		18 (18)		20 (20)		
	図 書 館 専 門 職 員	10 (10)		10 (10)		20 (20)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		2 (2)		2 (2)		
	計	192 (192)		89 (89)		281 (281)		

大学全体

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 内 借用地 2,635.10 m ² (内訳) ① 105.1m ² (平成17年4月1日～ 平成37年3月31日) ② 2530.0m ² (平成16年4月1日～ 平成37年3月31日)				
	校 舎 敷 地	66,525.45 m ²	— m ²	— m ²	66,525.45 m ²					
	運 動 場 用 地	47,531.69 m ²	— m ²	— m ²	47,531.69 m ²					
	小 計	114,057.14 m ²	— m ²	— m ²	114,057.14 m ²					
	そ の 他	162,220.71 m ²	— m ²	— m ²	162,220.71 m ²					
合 計	276,277.85 m ²	— m ²	— m ²	— m ²	276,277.85 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	専 用	大学全体				
		114,889.86 m ² (111,810.57 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	114,889.86 m ² (111,810.57 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	199室	44室	45室	28室 (補助職員13人)	10室 (補助職員11人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	20 室				
		社会学部社会学科								
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 を含む 図書 1,517,619冊 〔356,508冊〕 学術雑誌 2,411冊 〔372冊〕		
	社会学部社会学科	248,122〔58,371〕 (247,416〔58,275〕)	1,135〔293〕 (1,135〔293〕)	86〔82〕 (86〔82〕)	1,697〔591〕 (1,697〔591〕)	0 (0)	0 (0)			
	計	248,122〔58,371〕 (247,416〔58,275〕)	1,135〔293〕 (1,135〔293〕)	86〔82〕 (86〔82〕)	1,697〔591〕 (1,697〔591〕)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面 積		閲覧席座数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		14,659.66 m ²		1,759 席	1,753,964 冊					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		11,443.20 m ²		野球場、ラグビー場、テニスコート、弓道場						
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※共同研究費については大学全体 ※図書購入費については届出学部全体 ※学科の経常的経費を含む
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	8,629千円	11,833千円	13,647千円	13,674千円	13,674千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	3,294千円	1,500千円	3,000千円	4,500千円	6,000千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金	区分	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	社会学部 社会学科	1,201千円	944千円	944千円	944千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大東文化大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍		東京都板橋区 高島平1-9-1	
	文学研究科									
	日本文学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (日本文学)	0.50	S39年度		
	中国学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (中国学)	0.40	S39年度		
	英文学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (英文学)	0.40	S53年度		
	書道学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (書道学)	0.92	H15年度		
	教育学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (教育学)	0.20	H20年度		
日本文学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (日本文学)	0.20	S47年度			
中国学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (中国学)	0.00	S42年度			
書道学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (書道学)	0.55	H17年度			

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
既	経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (経済学) (公共政策学)	0.15	S47年度	東京都区板橋区 高島平1-9-1
	経済学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経済学)	0.00	S53年度	
設	法学研究科 法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (法学)	0.10	S52年度	東京都区板橋区 高島平1-9-1
	政治学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (政治学) (公共政策学)	0.14	H6年度	
大	法学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (法学)	0.00	H3年度	東京都区板橋区 高島平1-9-1
	政治学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (政治学)	0.08	H8年度	
学	外国語学研究科 中国言語文化学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (中国言語 文化学)	0.80	H11年度	東京都区板橋区 高島平1-9-1
	英語学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (英語学)	0.90	H11年度	
等	日本語文化学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (日本語 文化学)	0.25	H11年度	東京都区板橋区 高島平1-9-1
	中国言語文化学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (中国言語 文化学)	0.44	H23年度	
の	英語学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (英語学)	0.88	H17年度	埼玉県東松山市 岩殿560
	日本語文化学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (日本語 文化学)	0.44	H19年度	
状	アジア地域研究科 アジア地域研究専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士 (アジア 地域研究)	0.41	H11年度	埼玉県東松山市 岩殿560
	アジア地域研究専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (アジア 地域研究)	0.00	H13年度	
況	経営学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (経営学)	0.13	H15年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	経営学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経営学)	0.06	H15年度	
況	スポーツ・健康科学研究科 スポーツ・健康科学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (スポーツ科学) (健康科学)	0.65	H21年度	埼玉県東松山市 岩殿560
	法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	H16年度	

平成27年度より
学生募集停止
(法務研究科)

	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設 大 学 等 の 状 況	文学部		(530)		(2,160)		(1.11)				
	日本文学科	4	150	—	600	学士 (日本文学)	1.19	S37年度	埼玉県東松山市 岩殿560 (1,2年次) 東京都板橋区 高島平1-9-1	平成29年度 入学定員減(△30人) (中国文学科)	
	中国文学科	4	70	—	340	学士 (中国文学)	0.98	S37年度			
	英米文学科	4	130	—	520	学士 (英米文学)	1.15	S42年度		平成29年度 入学定員増(10人) (教育学科)	
	教育学科	4	120	—	460	学士 (教育学)	1.07	S47年度			
	書道学科	4	60	—	240	学士 (書道学)	1.14	H12年度			
	経済学部		(370)		(1,460)		(1.11)				
	社会経済学科	4	205	—	810	学士 (経済学)	1.11	S37年度		平成29年度 入学定員増(5人) (社会経済学科)	
	現代経済学科	4	165	—	650	学士 (経済学)	1.13	H13年度			平成29年度 入学定員増(5人) (現代経済学科)
	外国語学部		(360)		(1,500)		(1.09)				
	中国語学科	4	70	—	340	学士 (中国語学)	0.94	S47年度		平成29年度 入学定員減(△30人) (中国語学科)	
	英語学科	4	230	—	920	学士 (英語学)	1.13	S47年度			
	日本語学科	4	60	—	240	学士 (日本語学)	1.18	H5年度			
	法学部		(375)		(1,500)		(1.12)				
	法律学科	4	225	—	900	学士 (法学)	1.12	S48年度		平成29年度 入学定員増(15人) (経営学科)	
	政治学科	4	150	—	600	学士 (政治学)	1.13	H2年度			
	国際関係学部		(200)		(800)		(1.14)				
	国際関係学科	4	100	—	400	学士 (国際関係)	1.19	S61年度		(1~4年次) 埼玉県東松山市 岩殿560	
国際文化学科	4	100	—	400	学士 (国際文化)	1.09	S61年度				
経営学部		(365)		(1,430)		(1.12)					
経営学科	4	365	—	1,430	学士 (経営学)	1.14	H12年度	平成28年度より 学生募集停止 (企業システム学科)			
企業システム学科	4	—	—	—	学士 (経営学)	—	H12年度		(1,2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3,4年次) 東京都板橋区 高島平1-9-1		
環境創造学部		(165)		(660)		(1.12)					
環境創造学科	4	165	—	660	学士 (環境創造学)	1.12	H13年度	平成30年度より 学生募集停止 (環境創造学科)			
スポーツ・健康科学部		(225)		(850)		(1.12)					
スポーツ科学科	4	125	—	450	学士 (スポーツ科学)	1.19	H17年度	(1~4年次) 埼玉県東松山市 岩殿560	平成29年度 入学定員増(25人) (スポーツ科学科)		
健康科学科	4	100	—	400	学士 (健康科学)	1.06	H17年度				
附属施設の概要		該当なし									

学校法人 大東文化学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大東文化大学									
文学部					文学部				
日本文学科	150	-	600		日本文学科	150	-	600	
中国文学科	70	-	280		中国文学科	70	-	280	
英米文学科	130	-	520		英米文学科	130	-	520	
教育学科	120	-	480		教育学科	120	-	480	
書道学科	60	-	240		書道学科	60	-	240	
					<u>歴史文化学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(届出)
経済学部					経済学部				
社会経済学科	205	-	820		社会経済学科	205	-	820	
現代経済学科	165	-	660		現代経済学科	165	-	660	
外国語学部					外国語学部				
中国語学科	70	-	280		中国語学科	70	-	280	
英語学科	230	-	920		英語学科	230	-	920	
日本語学科	60	-	240		日本語学科	60	-	240	
法学部					法学部				
法律学科	225	-	900		法律学科	225	-	900	
政治学科	150	-	600		政治学科	150	-	600	
国際関係学部					国際関係学部				
国際関係学科	100	-	400		国際関係学科	100	-	400	
国際文化学科	100	-	400		国際文化学科	100	-	400	
経営学部					経営学部				
経営学科	365	-	1,460		経営学科	365	-	1,460	
環境創造学部									
環境創造学科	165	-	660			<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成30年4月学生募集停止
スポーツ・健康科学部					スポーツ・健康科学部				
スポーツ科学科	125	-	500		スポーツ科学科	125	-	500	
健康科学科	100	-	400		健康科学科	100	-	400	
					<u>看護学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(認可申請)
					社会学部				
					<u>社会学科</u>	<u>200</u>	-	<u>800</u>	学部の設置(届出)
計	2,590	-	10,360		計	<u>2,825</u>	-	<u>11,300</u>	
大東文化大学大学院									
文学研究科					文学研究科				
日本文学専攻(M)	5	-	10		日本文学専攻(M)	5	-	10	
日本文学専攻(D)	5	-	15		日本文学専攻(D)	5	-	15	
中国学専攻(M)	5	-	10		中国学専攻(M)	5	-	10	
中国学専攻(D)	3	-	9		中国学専攻(D)	3	-	9	
英文学専攻(M)	5	-	10		英文学専攻(M)	5	-	10	
書道学専攻(M)	7	-	14		書道学専攻(M)	7	-	14	
書道学専攻(D)	3	-	9		書道学専攻(D)	3	-	9	
教育学専攻(M)	10	-	20		教育学専攻(M)	10	-	20	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20		経済学専攻(M)	10	-	20	
経済学専攻(D)	5	-	15		経済学専攻(D)	5	-	15	
法学研究科					法学研究科				
法律学専攻(M)	10	-	20		法律学専攻(M)	10	-	20	
法律学専攻(D)	5	-	15		法律学専攻(D)	5	-	15	
政治学専攻(M)	7	-	14		政治学専攻(M)	7	-	14	
政治学専攻(D)	4	-	12		政治学専攻(D)	4	-	12	
外国語学研究科					外国語学研究科				
中国言語文化学専攻(M)	5	-	10		中国言語文化学専攻(M)	5	-	10	
中国言語文化学専攻(D)	3	-	9		中国言語文化学専攻(D)	3	-	9	
英語学専攻(M)	5	-	10		英語学専攻(M)	5	-	10	
英語学専攻(D)	3	-	9		英語学専攻(D)	3	-	9	
日本語文化学専攻(M)	10	-	20		日本語文化学専攻(M)	10	-	20	
日本語文化学専攻(D)	3	-	9		日本語文化学専攻(D)	3	-	9	
アジア地域研究科					アジア地域研究科				
アジア地域研究専攻(M)	12	-	24		アジア地域研究専攻(M)	12	-	24	
アジア地域研究専攻(D)	4	-	12		アジア地域研究専攻(D)	4	-	12	
経営学研究科					経営学研究科				
経営学専攻(M)	15	-	30		経営学専攻(M)	15	-	30	
経営学専攻(D)	5	-	15		経営学専攻(D)	5	-	15	
スポーツ・健康科学研究科					スポーツ・健康科学研究科				
スポーツ・健康科学専攻(M)	10	-	20		スポーツ・健康科学専攻(M)	10	-	20	
計	159	-	361		計	159	-	361	

教育課程等の概要																
(社会学部社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
1. 基本科目 全学共通科目	A系 人間と文化(人文系)	哲学A	1・2前・後	2		○			1						兼1	
	哲学B	1・2前・後	2		○			1							兼1	
	文学A	1・2前・後	2		○			1							兼2	
	文学B	1・2前・後	2		○			1							兼2	
	論理学A	1・2前・後	2		○										兼1	
	論理学B	1・2前・後	2		○										兼1	
	倫理学A	1・2前・後	2		○			1							兼1	
	倫理学B	1・2前・後	2		○			1							兼1	
	宗教学A	1・2前・後	2		○										兼1	
	宗教学B	1・2前・後	2		○										兼1	
	歴史学A	1・2前・後	2		○										兼4	
	歴史学B	1・2前・後	2		○										兼4	
	考古学A	1・2前・後	2		○										兼1	
	考古学B	1・2前・後	2		○										兼1	
	文化史A	1・2前・後	2		○										兼1	
	文化史B	1・2前・後	2		○										兼1	
	芸術学A	1・2前・後	2		○			1							兼3	
	芸術学B	1・2前・後	2		○			1							兼3	
	地理学A	1・2前・後	2		○										兼2	
	地理学B	1・2前・後	2		○										兼2	
	言語学A	1・2前・後	2		○										兼2	
	言語学B	1・2前・後	2		○										兼2	
	B系 社会と生活(社会系)	法学A	1・2前・後	2		○										兼2
	法学B	1・2前・後	2		○											兼2
	社会学A	1・2前・後	2		○						1					
	社会学B	1・2前・後	2		○						1					
	政治学A	1・2前・後	2		○											兼2
	政治学B	1・2前・後	2		○											兼2
	経済学A	1・2前・後	2		○											兼1
	経済学B	1・2前・後	2		○											兼1
	心理学A	1・2前・後	2		○						1					兼2
	心理学B	1・2前・後	2		○						1					兼2
	教育学A	1・2前・後	2		○						1					兼1
	教育学B	1・2前・後	2		○						1					兼1
	民俗学A	1・2前・後	2		○											兼1
	民俗学B	1・2前・後	2		○											兼1
文化人類学A	1・2前・後	2		○				1								
文化人類学B	1・2前・後	2		○				1								
C系 自然と環境(自然系)	数学A	1・2前・後	2		○										兼1	
数学B	1・2前・後	2		○											兼1	
地学A	1・2前・後	2		○											兼1	
地学B	1・2前・後	2		○											兼1	
生物学A	1・2前・後	2		○											兼2	
生物学B	1・2前・後	2		○											兼2	
生態学A	1・2前・後	2		○											兼1	
生態学B	1・2前・後	2		○											兼1	
現代科学A	1・2前・後	2		○											兼3	
現代科学B	1・2前・後	2		○											兼3	
情報科学A	1・2前・後	2		○											兼2	
情報科学B	1・2前・後	2		○											兼2	
自然科学A	1・2前・後	2		○											兼1	
自然科学B	1・2前・後	2		○											兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
1・基本科目	D系	総合体育A	1・2前	1				○								兼5	
		総合体育B	1・2後	1				○								兼5	
		健康スポーツ科学A	1・2前・後		2			○								兼4	
		健康スポーツ科学B	1・2前・後		2			○								兼4	
		体育実技A	2前		1				○							兼3	
		体育実技B	2後		1				○							兼3	
		野外実習A	1・2前・後		1				○							兼1	
		野外実習B	1・2前・後		1				○							兼1	
	2・課題(テーマ)科目	第1群	地域・国家・民族の考察A	1・2前・後		2			○								兼2
			地域・国家・民族の考察B	1・2前・後		2			○								兼2
		第2群	女性・子ども・老人への視点A	1・2前・後		2			○								兼2
			女性・子ども・老人への視点B	1・2前・後		2			○								兼2
		第3群	人権・民主主義・平和を考えるA	1・2前・後		2			○								兼1
			人権・民主主義・平和を考えるB	1・2前・後		2			○								兼1
第4群		現代社会の諸問題A	1・2前・後		2			○								兼2	
		現代社会の諸問題B	1・2前・後		2			○								兼2	
第5群		異文化・世界にふれるA	1・2前・後		2			○			2					兼3	
		異文化・世界にふれるB	1・2前・後		2			○			2					兼3	
第6群	自己・人間をみつめるA	1・2前・後		2			○			1					兼3		
	自己・人間をみつめるB	1・2前・後		2			○			1					兼3		
第7群	キャリアデザインA	1・2前・後		2			○								兼2		
	キャリアデザインB	1・2前・後		2			○								兼2		
第8群	全学共通特殊講義A	1・2前・後		2			○								兼2		
	全学共通特殊講義B	1・2前・後		2			○								兼2		
	小計(76科目)	—	2	144	0		—			4	0	2	0	0	兼54		

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教育科目	必修科目	フレッシュマンセミナーA	1前	2				○		6	3	4			
		フレッシュマンセミナーB	1後	2				○		6	3	4			
		時事英語 1	1前	1					○	1					兼5
		時事英語 2	1後	1					○	1					兼5
		実用コミュニケーション英語 1	1前	1					○	1					兼5
		実用コミュニケーション英語 2	1後	1					○	1					兼5
	選択必修科目	時事英語 3	2前		1				○	1					兼5
		英語で読む現代社会	2後		1				○	1					兼5
		実用コミュニケーション英語 3	2前		1				○	1					兼5
		実用コミュニケーション英語 4	2後		1				○	1					兼5
	海外英語研修	2通		4					○	1					
	未修外国語科目	ドイツ語初級 1 A	1・2前		1				○						兼1
		ドイツ語初級 1 B	1・2後		1				○						兼1
		ドイツ語初級 2 A	1・2前		1				○						兼1
		ドイツ語初級 2 B	1・2後		1				○						兼1
フランス語初級 1 A		1・2前		1				○						兼1	
フランス語初級 1 B		1・2後		1				○						兼1	
フランス語初級 2 A		1・2前		1				○						兼1	
フランス語初級 2 B		1・2後		1				○						兼1	
中国語初級 1 A		1・2前		1				○						兼1	
中国語初級 1 B		1・2後		1				○						兼1	
中国語初級 2 A		1・2前		1				○						兼1	
中国語初級 2 B		1・2後		1				○						兼1	
コリア語基礎 1 A		1・2前		1				○						兼1	
コリア語基礎 1 B		1・2後		1				○						兼1	
コリア語基礎 2 A	1・2前		1				○						兼1		
コリア語基礎 2 B	1・2後		1				○						兼1		
	小計 (27科目)	—	8	24	0			—	8	3	4	0	0	兼14	

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
必修科目	社会学入門A	1前	2			○			1						オムニバス 兼3 兼3	
	社会学入門B	1後	2			○			1							
	社会学の諸相	1前	2			○			1	1	1					
	社会統計入門	1後	2			○				1						
	情報処理基礎Ⅰ	1前	2				○				1					
	情報処理基礎Ⅱ	1後	2				○				1					
	社会調査Ⅰ	1前	2			○				1						
	社会調査Ⅱ	1後	2			○				1						
	社会学演習Ⅰ	2通	4				○		5	5	4					
	社会学演習Ⅱ	3通	4				○		5	5	3					
卒業研究	4通	4				○		5	5	3						
選択必修科目①	歴史社会学	1前		2		○			1						兼1 兼1 兼1	
	家族社会学	1後		2		○			1							
	教育社会学	1前		2		○					1					
	格差社会論	1後		2		○					1					
	社会学理論A	2前		2		○			1							
	社会学理論B	2後		2		○			1							
	社会学史	2前		2		○					1					
	組織社会学	2後		2		○										
	情報と統計基礎実習	2前・後		2				○								
	量的調査法	2後		2		○					1					
	社会調査法	2前		2		○										
	成熟社会A	3前		2		○			1							
	成熟社会B	3後		2		○			1							
社会調査実習	3通		4				○	1	2	1						
Introduction to Sociology (外書講読)	3前		2			○		1								
専門教育科目	多文化と共生コース 必修科目	国際社会学	2前		2		○			1					兼1 兼1 兼1 兼1	
		多文化社会論	2後		2		○			1						
		ジェンダーの社会学A	2前		2		○			1						
		ジェンダーの社会学B	2後		2		○			1						
	選択必修科目	文化人類学	2前		2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼1
		文化社会学	2後		2		○			1						
		ケアの社会学	2前		2		○									
		環境社会学A	3・4前		2		○									
		環境社会学B	3・4後		2		○									
		宗教社会学	3・4前		2		○									
	都市と地域コース 必修科目	都市社会学	2前		2		○				1					兼1 兼1
		地域デザイン論	2後		2		○					1				
地域社会学A		2前		2		○				1						
地域社会学B		2後		2		○				1						
選択必修科目		福祉医療政策	2前		2		○								兼1 兼1	
		ソーシャルキャピタル論	2前		2		○					1				
	地域福祉論	3・4前		2		○			1							
	地方自治	3・4前		2		○										
	行政学	3・4後		2		○										
	財政学A	3・4前		2		○					1					
メディアと情報コース 必修科目	情報社会論	2後		2		○					1			兼1		
	情報科学概論	2後		2		○				1						
	マスコミュニケーション論A	2前		2		○			1							
	マスコミュニケーション論B	2後		2		○			1							
選択必修科目	情報システム	2前		2		○					1			兼1		
	マルチメディア論	2前		2		○										
	統計解析基礎	3・4前		2			○			1						
	統計解析応用	3・4後		2			○			1						
	メディア社会	3・4後		2		○					1					
	ジャーナリズム論A	3・4前		2		○			1							
ジャーナリズム論B	3・4後		2		○			1								

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
専 門 教 育 科 目	共通 関 連 科 目	心理学概論A	1・2前	2		○										兼1	
		心理学概論B	1・2後	2		○										兼1	
		スポーツ社会学	1・2前	2		○										兼1	
		スポーツ心理学	1・2後	2		○										兼1	
		マイクロ経済学A	1・2前	2		○										兼1	
		マイクロ経済学B	1・2後	2		○										兼1	
		マクロ経済学A	1・2前	2		○										兼1	
		マクロ経済学B	1・2後	2		○										兼1	
		キャリアの社会学	2後	2		○						1					
		経営学概論A	2前	2		○					1						
		経営学概論B	2後	2		○					1						
		コミュニケーション論	2前	2		○											兼1
		社会システム論A	2前	2		○					1						
		社会システム論B	2後	2		○					1						
		社会科学の歴史A	2前	2		○					1						
		社会科学の歴史B	2後	2		○					1						
		公共政策論	3・4前	2		○											兼1
		行動分析学A	3・4前	2		○											兼1
	行動分析学B	3・4後	2		○											兼1	
	多 文 化 と 共 生 コ ー ス 関 連 科 目	国際関係論	1・2前	2		○										兼1	
		サブカルチャー論	1・2後	2		○					1						
		地域研究 (アジア)	2前	2		○										兼1	
		地域研究 (中東)	2後	2		○										兼1	
		教育心理学A	2前	2		○										兼1	
		教育心理学B	2後	2		○										兼1	
		環境経営	2前	2		○					1						
		社会心理学A	3・4前	2		○										兼1	
		社会心理学B	3・4後	2		○										兼1	
		社会階層論	3・4前	2		○					1						
		地域研究 (北米)	3・4後	2		○					1						
		地域研究 (ヨーロッパ)	3・4後	2		○					1						
	セクシュアリティ	3・4前	2		○										兼1		
	エスニシティ	3・4後	2		○					1							
	都 市 と 地 域 コ ー ス 関 連 科 目	民法A	1・2前	2		○										兼1	
		民法B	1・2後	2		○										兼1	
		産業心理学A	2前	2		○										兼1	
		産業心理学B	2後	2		○										兼1	
		コミュニティ心理学	2後	2		○						1					
		都市・地域政策論	2後	2		○						1					
		NPO/NGOの社会学	3・4前	2		○										兼1	
		地方財政論	3・4前	2		○										兼1	
		金融論	3・4前	2		○										兼1	
産業社会学A		3・4前	2		○						1						
産業社会学B		3・4後	2		○						1						
消費者政策		3・4前	2		○										兼1		
観光社会学		3・4後	2		○										兼1		
行政法		3・4前	2		○										兼1		
子ども福祉論	3・4前	2		○										兼1			
障がい福祉論	3・4後	2		○										兼1			
メ デ ィ ア と 情 報 コ ー ス 関 連 科 目	心理学基礎実験A	1・2前	2					○									
	心理学基礎実験B	1・2後	2					○									
	マスコミ史	2前	2			○				1							
	臨床心理学	2前	2			○					1						
	心理統計学	2後	2			○									兼1		
	情報ネットワーク	2前	2					○							兼1		
	広告論	3・4後	2			○				1							
	ビッグデータ論	3・4前	2			○									兼1		
	コンテンツ産業論	3・4前	2			○						1					
	プログラミング基礎	3・4前	2					○			1						
	プログラミング応用	3・4後	2					○			1						
	ネットワークコンピューティング	3・4前	2					○			1						
知的財産法	3・4後	2			○									兼1			
実験社会心理学A	3・4前	2									1						
実験社会心理学B	3・4後	2									1						
情報処理実習	3・4前	2												兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(社会学部社会学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門 教育 科目	特殊 講義 科目	社会学特殊講義Ⅰ	3・4前	2		○			1							
		社会学特殊講義Ⅱ	3・4前	2		○			1							
	特殊 キャリア 支援 科目	キャリア支援特殊講義Ⅰ	1・2前	2		○			1							
		キャリア支援特殊講義Ⅱ	1・2後	2		○			1							
		キャリア支援特殊講義Ⅲ	1・2前	2		○									兼1	
		キャリア支援特殊講義Ⅳ	1・2後	2		○									兼1	
		キャリア支援特殊講義Ⅴ	3・4前	2		○									兼1	
		キャリア支援特殊講義Ⅵ	3・4後	2		○			1							
		キャリア支援特殊講義Ⅶ	3・4前	2		○									兼1	
	キャリア支援特殊講義Ⅷ	3・4後	2		○			1								
	インターンシップ	3前	2				○								兼1	
	研修 科目	社会活動Ⅰ	1通	2			○		1							
		社会活動Ⅱ	1通	2			○		1							
		社会活動Ⅲ	1通	2			○				1					
		海外研修A	2前	2			○		1							
海外研修B		2前	2			○		1								
国内研修A		2前	2			○		1								
国内研修B	2前	2			○					1						
	小計 (142科目)	—	28	264	0	—		10	5	5	0	0		兼36		
外国 人留 学生 に 関 す る 日 本 語 科 目 等	活 動 コ ー ス	フィールドワークA	1・2前	2		○									兼1	
		フィールドワークB	1・2後	2		○									兼1	
	内 容 コ ー ス	日本の政治・経済・社会A	1・2前	2		○										兼1
		日本の政治・経済・社会B	1・2後	2		○										兼1
		日本の文化・芸術A	1・2前	2		○										兼1
		日本の文化・芸術B	1・2後	2		○										兼1
		日本の歴史A	1・2前	2		○										兼1
		日本の歴史B	1・2後	2		○										兼1
	現代日本の諸相A	1・2前	2		○										兼1	
	現代日本の諸相B	1・2後	2		○										兼1	
言 語 コ ー ス (発 展)	理解とコミュニケーションA	1・2前	1			○									兼1	
	理解とコミュニケーションB	1・2後	1			○									兼1	
	資料・文献読解A	1・2前	1			○									兼1	
	資料・文献読解B	1・2後	1			○									兼1	
	日本語文章表現A	1・2前	1			○									兼1	
	日本語文章表現B	1・2後	1			○									兼1	
	小計 (16科目)	—	0	26	0	—		0	0	0	0	0		兼7		
合計 (261科目)		—	38	458	0	—		10	5	5	0	0		兼107		
学位又は称号		学士 (社会学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
全学共通科目から6単位 (総合体育A B 2単位必修とB系及びテーマ科目1～5群の中から4単位選択必修) 基礎教育科目の必修科目8単位、選択必修科目4単位、 専門教育科目の必修科目から28単位、選択必修科目から48単位、 さらに科目区分問わず、30単位の 合計124単位以上を修得することを卒業要件とする。 専門教育科目の選択必修科目48単位分の履修方法は、選択必修科目①から8 単位、2年次に3コースのうちいずれかひとつを選択し (選択必修科目②)、 16単位を必修及び選択必修とし、4単位を選択したコース以外のコース科目 を選択必修、20単位分は関連科目 (選択必修科目③) から選んで履修するこ と要件とする。 (履修科目の登録上限は年間1～4年次44単位まで)							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(社会学部社会学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 1. 基本科目 A系 人間と文化(人文系)	哲学A	<p>哲学とは、「世界」や「知識」や「私」のありようとその根拠について、自分の頭で考え抜き、それを明晰な言葉で表現しようと努める、知的な営みである。ところで、哲学が「学」である以上、学に固有な言葉の使い方と、それを踏まえた思考の作法が存在する。この科目では、哲学の歴史を概観し、さらに個々の哲学者を取り上げながら、哲学的思考を成り立たせている基礎概念の意味を明らかにする。</p> <p>開講するテーマとしては「哲学入門」、「哲学史」、「西洋哲学史概説」など。</p>	
	哲学B	<p>哲学とは、「世界」や「知識」や「私」のありようとその根拠について、自分の頭で考え抜き、それを明晰な言葉で表現しようと努める、知的な営みである。ところで、哲学が「学」である以上、学に固有な言葉の使い方と、それを踏まえた思考の作法が存在する。この科目では、哲学の歴史を概観し、さらに個々の哲学者を取り上げながら、哲学的思考を成り立たせている基礎概念の意味を明らかにする。</p> <p>開講するテーマとしては「哲学入門」、「哲学史」、「西洋哲学史概説」など。</p> <p>上記『哲学A』を修得後、『哲学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	文学A	<p>主として19世紀以降に日本語および外国語で書かれたさまざまな作品を、恋愛について、希望について、異界について、戦争について、資本主義についてなど、さまざまな観点から読む。また、作家の人生や作品の成立を歴史的社会的な背景のなかで捉えることの重要性を考える。そのような作業をとおして、文学がいかに「今」を生きる私たちの認識を深め、日常的な生への思考に新たな発想をひらくかを確認する。</p> <p>開講するテーマとしては「アジアの戦争と文学」、「近代日本文学」、「現代日本文学」、「比較文学」、「フランスの文学」、「文学から学ぶ人間の生き方」、「文学と美術」など。</p>	
	文学B	<p>主として19世紀以降に日本語および外国語で書かれたさまざまな作品を、恋愛について、希望について、異界について、戦争について、資本主義についてなど、さまざまな観点から読む。また、作家の人生や作品の成立を歴史的社会的な背景のなかで捉えることの重要性を考える。そのような作業をとおして、文学がいかに「今」を生きる私たちの認識を深め、日常的な生への思考に新たな発想をひらくかを確認する。</p> <p>開講するテーマとしては「アジアの戦争と文学」、「近代日本文学」、「現代日本文学」、「比較文学」、「フランスの文学」、「文学から学ぶ人間の生き方」、「文学と美術」など。</p> <p>上記『文学A』を修得後、『文学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	論理学A	<p>ものごとを正しく理解し、それを的確に表現するためのもっとも基本的な思考の枠組みが論理学である。この科目では、現代論理学(記号論理学)の初歩を題材に、論理記号の意味と操作を修得することによって論理的思考力を身につけることを目指す。また、思考そのものの学である論理学への日常的かつ実践的な導入を目的とし、とくに判断推理を取り上げて論理的思考力のトレーニングを行う。</p> <p>開講するテーマとしては「論理学入門」、「論理的思考」など。</p>	
	論理学B	<p>ものごとを正しく理解し、それを的確に表現するためのもっとも基本的な思考の枠組みが論理学である。この科目では、現代論理学(記号論理学)の初歩を題材に、論理記号の意味と操作を修得することによって論理的思考力を身につけることを目指す。また、思考そのものの学である論理学への日常的かつ実践的な導入を目的とし、とくに判断推理を取り上げて論理的思考力のトレーニングを行う。</p> <p>開講するテーマとしては「論理学入門」、「論理的思考」など。</p> <p>上記『論理学A』を修得後、『論理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 1. 基本科目 A系 人間と文化（人文系）	倫理学A	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。この科目では「倫理学的にものを考えるとはどういうことか」について考えていく。開講するテーマは「生きる意味の探求と創造」、「環境倫理学」、「現代世界における自由と共生」、「倫理学入門」など。	
	倫理学B	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。この科目では「倫理学的にものを考えるとはどういうことか」について考えていく。開講するテーマは「生きる意味の探求と創造」、「環境倫理学」、「現代世界における自由と共生」、「倫理学入門」など。上記『倫理学A』を修得後、『倫理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	宗教学A	宗教は、現代の世界で大きな力を持っている。にもかかわらず日本では、あまりなじみがない人が多いのが現状である。「宗教とは何か」という問いからはじめて、世界の中の宗教に目を向けてみたり、現代日本文化の中の宗教的なものを省みたりして宗教の諸相をめぐり、最後に自分なりの答えを出していく。東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握することを目標とする。開講するテーマは「宗教学概論A」、「宗教学概論B」など。	
	宗教学B	宗教は、現代の世界で大きな力を持っている。にもかかわらず日本では、あまりなじみがない人が多いのが現状である。「宗教とは何か」という問いからはじめて、世界の中の宗教に目を向けてみたり、現代日本文化の中の宗教的なものを省みたりして宗教の諸相をめぐり、最後に自分なりの答えを出していく。東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握することを目標とする。開講するテーマは「宗教学概論A」、「宗教学概論B」など。上記『宗教学A』を修得後、『宗教学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	歴史学A	日本史、東洋史、西洋史のさまざまな局面を素材として、たとえば奴隷制や封建制といった基本概念を知り、時代区分の方法などを学び、さらには、歴史を理解する上では仮説・概念が先導的な役割を果たすこと、また仮説と実証、そしてそれをめぐる批判と反批判を通じて認識が進化していくことなどを考える。また、歴史上の有名な人物や事件を、多層的・立体的にとらえなおし、理解を深めていく。開講するテーマは「イギリス近現代史」、「東西交渉史」、「東洋史」、「日本近世・近代政治史」、「日本社会構成史」、「中国近世史」、「中国近世思想史」、「中国近代史」、「中国現代史」、「中国古代史」、「中国古代理想史」など。	
	歴史学B	日本史、東洋史、西洋史のさまざまな局面を素材として、たとえば奴隷制や封建制といった基本概念を知り、時代区分の方法などを学び、さらには、歴史を理解する上では仮説・概念が先導的な役割を果たすこと、また仮説と実証、そしてそれをめぐる批判と反批判を通じて認識が進化していくことなどを考える。また、歴史上の有名な人物や事件を、多層的・立体的にとらえなおし、理解を深めていく。開講するテーマは「イギリス近現代史」、「東西交渉史」、「東洋史」、「日本近世・近代政治史」、「日本社会構成史」、「中国近世史」、「中国近世思想史」、「中国近代史」、「中国現代史」、「中国古代史」、「中国古代理想史」など。上記『歴史学A』を修得後、『歴史学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 1. 基本科目 A系 人間と文化（人文系）	考古学A	<p>考古学は、遺跡・遺構・遺物の研究によって、過去の人間生活を知る学問である。この科目では、考古学の研究法やその特徴を解説し、東アジアや日本の考古学の成果として、最近の遺跡発掘調査成果などを具体的に紹介する。また考古学的方法によって明らかになってきた、東アジアにおける文明の誕生から古代国家の形成までの歴史を概観する。</p> <p>開講するテーマは「日本考古学」、「考古学概説」など。</p>	
	考古学B	<p>考古学は、遺跡・遺構・遺物の研究によって、過去の人間生活を知る学問である。この科目では、考古学の研究法やその特徴を解説し、東アジアや日本の考古学の成果として、最近の遺跡発掘調査成果などを具体的に紹介する。また考古学的方法によって明らかになってきた、東アジアにおける文明の誕生から古代国家の形成までの歴史を概観する。</p> <p>開講するテーマは「日本考古学」、「考古学概説」など。</p> <p>上記『考古学A』を修得後、『考古学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	文化史A	<p>文化とは、人々の日常生活を構成する衣食住それ自体はもとより、こうした日常生活と密接にかかわる技術や学問、芸術、道徳、宗教等を総体的に含めた概念である。洋の東西を問わず、それぞれの時代ごとに象徴的な文化が人々によって生み出されてきたが、その移り変わりを学ぶことは、それぞれの時代の社会背景を理解することとなり、ひいては現在そして将来の文化と社会を理解・展望することになる。授業では、複数のテーマの下に、各時代の文化の移り変わりを学ぶ。</p> <p>開講するテーマは「日本文化史A」、「日本文化史B」など。</p>	
	文化史B	<p>文化とは、人々の日常生活を構成する衣食住それ自体はもとより、こうした日常生活と密接にかかわる技術や学問、芸術、道徳、宗教等を総体的に含めた概念である。洋の東西を問わず、それぞれの時代ごとに象徴的な文化が人々によって生み出されてきたが、その移り変わりを学ぶことは、それぞれの時代の社会背景を理解することとなり、ひいては現在そして将来の文化と社会を理解・展望することになる。授業では、複数のテーマの下に、各時代の文化の移り変わりを学ぶ。</p> <p>開講するテーマは「日本文化史A」、「日本文化史B」など。</p> <p>上記『文化史A』を修得後、『文化史A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	芸術学A	<p>音楽、舞台芸術、美術、映画、それぞれの分野を考察するための用語になじみ、音楽史、演劇史、美術史、映画史の潮流を概観し、特定のテーマに沿って、あるいは特定の時代を区切って、具体的な作品を鑑賞する。芸術が人々にどのような影響を与えてきたか、歴史的社会的な動きが芸術にどのような影響をもたらしたかを考察し、現代を生きる私たちにとって芸術活動がもつ多様な役割を認識する。</p> <p>開講するテーマは「映画論」、「西洋美術史」、「ヨーロッパ絵画史」、「音楽」、「絵画」、「日本美術史概論」、「日本美術史特論」、「美術史」、「舞台芸術論」など。</p>	
芸術学B	<p>音楽、舞台芸術、美術、映画、それぞれの分野を考察するための用語になじみ、音楽史、演劇史、美術史、映画史の潮流を概観し、特定のテーマに沿って、あるいは特定の時代を区切って、具体的な作品を鑑賞する。芸術が人々にどのような影響を与えてきたか、歴史的社会的な動きが芸術にどのような影響をもたらしたかを考察し、現代を生きる私たちにとって芸術活動がもつ多様な役割を認識する。</p> <p>開講するテーマは「映画論」、「西洋美術史」、「ヨーロッパ絵画史」、「音楽」、「絵画」、「日本美術史概論」、「日本美術史特論」、「美術史」、「舞台芸術論」など。</p> <p>上記『芸術学A』を修得後、『芸術学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学 共通科目	1. 基本科目 人間と文化(人文系)	地理学A	高齢化や少子化などの人口問題、都市交通の問題、農業の問題、自然環境の問題、自然災害の問題など、現代の私たちが地球規模で直面しているさまざまな難問を取り上げ、人文地理学および自然地理学の最新の研究成果を紹介しながら、それらの問題にどのように取り組んでいくべきか、あるいはどのように取り組むことが可能であるかを考える。 開講するテーマは「都市地理」、「人口地理」、「地域と交通」、「世界の農業」、「自然地理」など。	
		地理学B	高齢化や少子化などの人口問題、都市交通の問題、農業の問題、自然環境の問題、自然災害の問題など、現代の私たちが地球規模で直面しているさまざまな難問を取り上げ、人文地理学および自然地理学の最新の研究成果を紹介しながら、それらの問題にどのように取り組んでいくべきか、あるいはどのように取り組むことが可能であるかを考える。 開講するテーマは「都市地理」、「人口地理」、「地域と交通」、「世界の農業」、「自然地理」など。 上記『地理学A』を修得後、『地理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
		言語学A	ことばは音をどのように使って成立しているのか、ことばの意味はどのようにして発生するのか、言外の意味はどのようにして可能なのかなどについて、日常的に使っている日本語や英語を素材にしながらかける。また、社会や社会階層や時代によってことばはどのように変化するのか、人間はことば(母語、第二言語)をどのように修得するのかなどについて、さまざまな言語学の最新の動向を踏まえて考える。 開講するテーマは「ことばを科学する」、「社会の中の言語」など。	
		言語学B	ことばは音をどのように使って成立しているのか、ことばの意味はどのようにして発生するのか、言外の意味はどのようにして可能なのかなどについて、日常的に使っている日本語や英語を素材にしながらかける。また、社会や社会階層や時代によってことばはどのように変化するのか、人間はことば(母語、第二言語)をどのように修得するのかなどについて、さまざまな言語学の最新の動向を踏まえて考える。 開講するテーマは「ことばを科学する」、「社会の中の言語」など。 上記『言語学A』を修得後、『言語学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	B系 社会と生活(社会系)	法学A	この科目では、法律に関する基礎的な知識を学んでいく。社会生活や日常生活では、さまざまな場面で決まりごとが存在するが、そのひとつが法律である。法律とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、法律はどのように発展してきたのか、現代社会において問題となっている事柄について、法律がどのように関わってくるのかなどを学修する。また、憲法、民法、刑法の基本的知識を修得する。 開講するテーマは「法学A」、「法学B」など。	
		法学B	この科目では、法律に関する基礎的な知識を学んでいく。社会生活や日常生活では、さまざまな場面で決まりごとが存在するが、そのひとつが法律である。法律とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、法律はどのように発展してきたのか、現代社会において問題となっている事柄について、法律がどのように関わってくるのかなどを学修する。また、憲法、民法、刑法の基本的知識を修得する。 開講するテーマは「法学A」、「法学B」など。 上記『法学A』を修得後、『法学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 B系 1. 基本科目 社会と生活（社会系）	社会学A	人間が他人に対して行う「社会的行為」、他人と取り結ぶ「社会関係」、他人とともに形成する「社会集団」という三つのテーマを軸として、社会学の基礎的諸概念を解説する。特に「社会的行為」と、行為を導く、また行為の結果として生じるさまざまなパターンという意味での「文化」との関係を多面的に考察する。そしてそれらの議論の中で登場する種々の概念を用いて、多様な社会現象、たとえば流行、映画、コミック、アニメ、ゲーム、環境問題、ジェンダーなどを、どのように分析・説明・評価できるかを示す。開講するテーマは「環境社会学」、「社会科学の歴史」、「社会学の考え方」、「現代社会論」、「社会問題のとらえ方」など。	
	社会学B	人間が他人に対して行う「社会的行為」、他人と取り結ぶ「社会関係」、他人とともに形成する「社会集団」という三つのテーマを軸として、社会学の基礎的諸概念を解説する。特に「社会的行為」と、行為を導く、また行為の結果として生じるさまざまなパターンという意味での「文化」との関係を多面的に考察する。そしてそれらの議論の中で登場する種々の概念を用いて、多様な社会現象、たとえば流行、映画、コミック、アニメ、ゲーム、環境問題、ジェンダーなどを、どのように分析・説明・評価できるかを示す。開講するテーマは「環境社会学」、「社会科学の歴史」、「社会学の考え方」、「現代社会論」、「社会問題のとらえ方」など。上記『社会学A』を修得後、『社会学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	政治学A	政治とは、人間が集団を形成する上で不可欠な営みであり、私たちが通常思い浮かべるような、地方自治体・国・世界の政治はすべてその延長線上に存在するものである。いいかえれば、私たちの日常生活そのものが政治の一環であるといえる。ゆえに私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、政治という営みから無縁ではられない。この点を念頭に置きつつ、政治を理解するうえで必要な基本的な概念、政治思想、政治制度などについて説明する。開講するテーマは「政治学入門A」、「政治学入門B」など。	
	政治学B	政治とは、人間が集団を形成する上で不可欠な営みであり、私たちが通常思い浮かべるような、地方自治体・国・世界の政治はすべてその延長線上に存在するものである。いいかえれば、私たちの日常生活そのものが政治の一環であるといえる。ゆえに私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、政治という営みから無縁ではられない。この点を念頭に置きつつ、政治を理解するうえで必要な基本的な概念、政治思想、政治制度などについて説明する。開講するテーマは「政治学入門A」、「政治学入門B」など。上記『政治学A』を修得後、『政治学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	経済学A	この科目では自分の人生と経済との関わりを意識する目を養うとともに、一般常識としての経済学の用語や考え方を身につける。たとえば、マクロ経済学の基本として、GDP、株価、金利が動く仕組みを理解し、経済政策と景気の間を考察する。また、ミクロ経済学の基本として、消費者である自分の行動、バイト先や就職先である企業の活動、需要と供給について学び、市場の失敗を是正する政府の役割について考える。開講するテーマは「国際経済論」、「産業経済学」、「入門経済学」など。	
	経済学B	この科目では自分の人生と経済との関わりを意識する目を養うとともに、一般常識としての経済学の用語や考え方を身につける。たとえば、マクロ経済学の基本として、GDP、株価、金利が動く仕組みを理解し、経済政策と景気の間を考察する。また、ミクロ経済学の基本として、消費者である自分の行動、バイト先や就職先である企業の活動、需要と供給について学び、市場の失敗を是正する政府の役割について考える。開講するテーマは「国際経済論」、「産業経済学」、「入門経済学」など。上記『経済学A』を修得後、『経済学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 1. 基本科目 B系 社会と生活(社会系)	心理学A	<p>私たちは、日々、周囲の環境から得られる情報を用いて、他者や出来事や自分自身に関し、さまざまな推論・判断を行っている。このような社会的認知過程の仕組みについて、自己について、対人関係について、さらには「心の健康」について、心理学の多様な分野で進められている最新の研究に基づいて考え、具体的事例と理論的背景を結びつけながら、人の心の不思議さやおもしろさについて理解する。</p> <p>開講するテーマは「こころの健康」、「自分を知る・他人を知る」、「心理学概論」、「心理学入門」、「人と人とのかかわり」など。</p>	
	心理学B	<p>私たちは、日々、周囲の環境から得られる情報を用いて、他者や出来事や自分自身に関し、さまざまな推論・判断を行っている。このような社会的認知過程の仕組みについて、自己について、対人関係について、さらには「心の健康」について、心理学の多様な分野で進められている最新の研究に基づいて考え、具体的事例と理論的背景を結びつけながら、人の心の不思議さやおもしろさについて理解する。</p> <p>開講するテーマは「こころの健康」、「自分を知る・他人を知る」、「心理学概論」、「心理学入門」、「人と人とのかかわり」など。</p> <p>上記『心理学A』を修得後、『心理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	教育学A	<p>ドイツの哲学者カントは、「ヒトは、教育によってのみ人となる」といった。また、教育論の代表的な古典の一つである『エミール』の中でフランスの哲学者ルソーは、「人は、生まれたときから学び始める」と述べている。このように、教育は、学校だけではなく、人間にとって本質的な、しかも日常的に行われている営為である。この科目では、さまざまな定義や考え方のある教育について、「人間にとって教育とは何か」という、根本的な視点から考察する。</p> <p>開講するテーマは「ボランティア活動」、「人間と教育」、「社会と教育」など。</p>	
	教育学B	<p>ドイツの哲学者カントは、「ヒトは、教育によってのみ人となる」といった。また、教育論の代表的な古典の一つである『エミール』の中でフランスの哲学者ルソーは、「人は、生まれたときから学び始める」と述べている。このように、教育は、学校だけではなく、人間にとって本質的な、しかも日常的に行われている営為である。この科目では、さまざまな定義や考え方のある教育について、「人間にとって教育とは何か」という、根本的な視点から考察する。</p> <p>開講するテーマは「ボランティア活動」、「人間と教育」、「社会と教育」など。</p> <p>上記『教育学A』を修得後、『教育学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	民俗学A	<p>民俗学は、風俗、習慣、伝説、民話など、民間で伝承されてきた衣・食・住や労働にかかわるさまざまな道具(民具)や、伝承資料をとおして、私たちの文化の諸相、歴史的变化、他の文化との違いなどを明らかにする学問である。この科目では、そのような民俗学のあらましを基礎教養として修得する。また、具体的なテーマとして、日本における「家族」、「婚姻」、「イエ」、現代の伝承の例としての「うわさ話」などを取り上げて考える。</p> <p>開講するテーマは「民俗学A」、「民俗学B」など。</p>	
	民俗学B	<p>民俗学は、風俗、習慣、伝説、民話など、民間で伝承されてきた衣・食・住や労働にかかわるさまざまな道具(民具)や、伝承資料をとおして、私たちの文化の諸相、歴史的变化、他の文化との違いなどを明らかにする学問である。この科目では、そのような民俗学のあらましを基礎教養として修得する。また、具体的なテーマとして、日本における「家族」、「婚姻」、「イエ」、現代の伝承の例としての「うわさ話」などを取り上げて考える。</p> <p>開講するテーマは「民俗学A」、「民俗学B」など。</p> <p>上記『民俗学A』を修得後、『民俗学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目 1. 基本科目	B系 社会と生活（社会系）	文化人類学A	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例を用いながら、我々の「あたりまえ」が、どこの地域（日本の各地域や異文化）においても共通するものなのか再考する。ものごとを多面的に捉える視点を養うことが、この科目の目的である。また、現代日本における信仰のあり方を、身近に生起する諸現象（葬送儀礼等）や行事（祭礼等）から捉え、現代社会を再考する。特に、コミュニティやネットワーク、ジェンダー、逸脱、力関係等の側面から、「伝統」のありかたを多面的に捉えていく。 開講するテーマは「文化人類学概論A」、「文化人類学概論B」など。	
		文化人類学B	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例を用いながら、我々の「あたりまえ」が、どこの地域（日本の各地域や異文化）においても共通するものなのか再考する。ものごとを多面的に捉える視点を養うことが、この科目の目的である。また、現代日本における信仰のあり方を、身近に生起する諸現象（葬送儀礼等）や行事（祭礼等）から捉え、現代社会を再考する。特に、コミュニティやネットワーク、ジェンダー、逸脱、力関係等の側面から、「伝統」のありかたを多面的に捉えていく。 開講するテーマは「文化人類学概論A」、「文化人類学概論B」など。 上記『文化人類学A』を修得後、『文化人類学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	C系 自然と環境（自然系）	数学A	人類は、古代より数に興味をもってきた。物の個数を数えたり、物を足し合わせたり、物を分割したりすることを通じて、数が発見され研究されてきた。人類は長い年月をかけ、数を理解してきたが、私たちは高校までの短期間で数学を学んでしまう。この科目では、高校までに学んできた数学の一部をじっくり掘り下げてみることによって、歴史としての数学を再発見する。また、多くの学問の基礎をなす微分積分学を、文系の学生のために初歩から解説する。 開講するテーマは「人類の歴史としての数学・再発見」、「文系のための微分積分入門」など。	
		数学B	人類は、古代より数に興味をもってきた。物の個数を数えたり、物を足し合わせたり、物を分割したりすることを通じて、数が発見され研究されてきた。人類は長い年月をかけ、数を理解してきたが、私たちは高校までの短期間で数学を学んでしまう。この科目では、高校までに学んできた数学の一部をじっくり掘り下げてみることによって、歴史としての数学を再発見する。また、多くの学問の基礎をなす微分積分学を、文系の学生のために初歩から解説する。 開講するテーマは「人類の歴史としての数学・再発見」、「文系のための微分積分入門」など。 上記『数学A』を修得後、『数学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
		地学A	この科目では、宇宙の進化の中で太陽系や地球ができる過程、海の形成・大陸の形成・生命の誕生など、現在にいたる46億年の地球の歴史を概観する。また、気象観測の方法や南極観測隊の観測などについて説明する。さらに、地球環境をグローバルな目で観察し、人類もまた大きな地球環境の一部であるという視点から地球環境の変動について理解し、異常気象、自然災害、地球温暖化、放射能汚染などを考える道具を提供する。 開講するテーマは「気候と気象」、「地球環境科学」、「地球惑星科学」、「南極の科学」など。	
		地学B	この科目では、宇宙の進化の中で太陽系や地球ができる過程、海の形成・大陸の形成・生命の誕生など、現在にいたる46億年の地球の歴史を概観する。また、気象観測の方法や南極観測隊の観測などについて説明する。さらに、地球環境をグローバルな目で観察し、人類もまた大きな地球環境の一部であるという視点から地球環境の変動について理解し、異常気象、自然災害、地球温暖化、放射能汚染などを考える道具を提供する。 開講するテーマは「気候と気象」、「地球環境科学」、「地球惑星科学」、「南極の科学」など。 上記『地学A』を修得後、『地学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 1. 基本科目 C系 自然と環境（自然系）	生物学A	<p>生物は「生きる」ための巧みな仕組みをもち、他の生物や周囲の環境とのさまざまな関係を築いている。この科目では、人間を含むすべての生物がもっている生命を維持する仕組み、生命をつないでいく仕組みを理解し、生きるとはどのようなことか、生命活動とはどのようなものか、要するに生命とは何かについて考える。また、生物の進化、遺伝子の進化について考える。</p> <p>開講するテーマは「生命の科学」、「生物と環境の理論と実際」など。</p>	
	生物学B	<p>生物は「生きる」ための巧みな仕組みをもち、他の生物や周囲の環境とのさまざまな関係を築いている。この科目では、人間を含むすべての生物がもっている生命を維持する仕組み、生命をつないでいく仕組みを理解し、生きるとはどのようなことか、生命活動とはどのようなものか、要するに生命とは何かについて考える。また、生物の進化、遺伝子の進化について考える。</p> <p>開講するテーマは「生命の科学」、「生物と環境の理論と実際」など。</p> <p>上記『生物学A』を修得後、『生物学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	生態学A	<p>多様な生物と環境の相互作用によって成り立っているのが生態系である。この系内をさまざまな物質が移動することによって生態系は維持されている。生態系が存在することによって自然界が保たれていると考えることができる。この科目では、生態系の仕組み、そこで活動する生物のさまざまな姿、生物と環境との関わり、生物間の相互作用などを理解し、その関係性が崩れた場合に生態系はどのように変化することになるかを学び、人と生態系の関係のあり方について考察する。</p> <p>開講するテーマは「生態学入門」、「物質循環」など。</p>	
	生態学B	<p>多様な生物と環境の相互作用によって成り立っているのが生態系である。この系内をさまざまな物質が移動することによって生態系は維持されている。生態系が存在することによって自然界が保たれていると考えることができる。この科目では、生態系の仕組み、そこで活動する生物のさまざまな姿、生物と環境との関わり、生物間の相互作用などを理解し、その関係性が崩れた場合に生態系はどのように変化することになるかを学び、人と生態系の関係のあり方について考察する。</p> <p>開講するテーマは「生態学入門」、「物質循環」など。</p> <p>上記『生態学A』を修得後、『生態学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	現代科学A	<p>人間が大量のエネルギーを消費することによって発生するさまざまな問題（資源枯渇や環境問題）、健康と食の問題、生活習慣病と食の問題など、現代社会において大きな問題になっている事柄について、科学的な知見に基づいて具体的に考えていく。</p> <p>開講するテーマは「栄養と生体機能」、「エネルギーの科学」、「環境と資源」など。</p>	
	現代科学B	<p>人間が大量のエネルギーを消費することによって発生するさまざまな問題（資源枯渇や環境問題）、健康と食の問題、生活習慣病と食の問題など、現代社会において大きな問題になっている事柄について、科学的な知見に基づいて具体的に考えていく。</p> <p>開講するテーマは「栄養と生体機能」、「エネルギーの科学」、「環境と資源」など。</p> <p>上記『現代科学A』を修得後、『現代科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	C系 自然と環境（自然系）	情報科学A	コンピュータの誕生をきっかけに、私たちの社会はいくつかのパラダイムシフトを経て、大きな変化を遂げてきた。パソコンの登場からIT産業の劇的な構造転換、インターネット革命など、産業革命以上ともいえるこの変革は、これからの世界を大きく変えるものである。この科目では、プログラミング言語について、コンピュータが提起する哲学的な問題について考える。 開講するテーマは「言語・機械・知識」、「コンピュータと人間社会」、「プログラミング講義」、「情報の倫理」など。	
		情報科学B	コンピュータの誕生をきっかけに、私たちの社会はいくつかのパラダイムシフトを経て、大きな変化を遂げてきた。パソコンの登場からIT産業の劇的な構造転換、インターネット革命など、産業革命以上ともいえるこの変革は、これからの世界を大きく変えるものである。この科目では、プログラミング言語について、コンピュータが提起する哲学的な問題について考える。 開講するテーマは「言語・機械・知識」、「コンピュータと人間社会」、「プログラミング講義」、「情報の倫理」など。 上記『情報科学A』を修得後、『情報科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
		自然科学A	古代から現代の科学的宇宙観にいたるまで、人間がその時代の中で宇宙・地球をどのように理解しようとしてきたかをたどる。時代と共に変わる宇宙観の変遷を明らかにすることによって、科学とはどういうものであるのかということについても論じていく。 開講するテーマは「自然科学史A」、「自然科学史B」など。	
		自然科学B	古代から現代の科学的宇宙観にいたるまで、人間がその時代の中で宇宙・地球をどのように理解しようとしてきたかをたどる。時代と共に変わる宇宙観の変遷を明らかにすることによって、科学とはどういうものであるのかということについても論じていく。 開講するテーマは「自然科学史A」、「自然科学史B」など。 上記『自然科学A』を修得後、『自然科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
		総合体育A	健全で有意義な学生生活を送るための基本となる健康管理について、その基礎的な知識と実践能力の修得を目標とする。健康に関する講義は、「栄養素と摂取バランス」、「スポーツ障害と外傷」、「青年期の性とSTD」をテーマに前期3回行う。実技種目は初回授業時に、5～6種目の中から、希望するものを選択する。5月上旬に「踏み台昇降運動、反復横とび、立位体前屈、垂直跳び、握力」の5種目による体力診断テストを行う。	
	D系 健康とスポーツ（保健体育系）	総合体育B	実技種目は原則として、総合体育Aで履修した授業を継続する。健康に関する講義は、「人間の健康と運動」、「トレーニングの基礎理論」、「心とからだ」をテーマに後期3回行う。12月初旬に前期と同じ内容の体力診断テストを行い、一年間の実技授業における体力面での成果を確認する。	
		健康スポーツ科学A	この科目では、健康とスポーツをめぐるさまざまな問題、「一般市民の救急法」、「スポーツマネジメント」、「ライフスタイルと健康」、「心身の健康と食」、「心と体の健康科学」などをテーマに講義する。	
		健康スポーツ科学B	この科目では、健康とスポーツをめぐるさまざまな問題、「一般市民の救急法」、「スポーツマネジメント」、「ライフスタイルと健康」、「心身の健康と食」、「心と体の健康科学」などをテーマに講義する。 上記『健康スポーツ科学A』を修得後、『健康スポーツ科学A』で選ばなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 1. 基本科目 D系 健康とスポーツ（保健体育系）	体育実技 A	バレーボール、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳などから1種目を選び、その競技のルール、マナー、特徴を学び、基本的技術を修得する。身体を動かすことをとおして心身の健康をはかると同時に、コミュニケーション能力を高めることを狙うが、さらに、生涯にわたってスポーツを継続して行う態度を養成し、それによって自分や家族の健康の維持増進に貢献できるような予防医学的姿勢を確立することも目標とする。	
	体育実技 B	バレーボール、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳などから1種目を選び、その競技のルール、マナー、特徴を学び、基本的技術を修得する。身体を動かすことをとおして心身の健康をはかると同時に、コミュニケーション能力を高めることを狙うが、さらに、生涯にわたってスポーツを継続して行う態度を養成し、それによって自分や家族の健康の維持増進に貢献できるような予防医学的姿勢を確立することも目標とする。 上記『体育実技 A』を修得後、『体育実技 A』で選択しなかった種目を選んで、履修する。	
	野外実習 A	数日間の合宿によってスキーやスクーパーダイビングを集中的に実習する科目である。それぞれのスポーツのルール、マナー、特徴を学び、各受講者のレベルに合った技術を修得する。合宿をおして友人と接し、絆を深め、学生生活を一層充実させることを狙うが、生涯にわたって健康と体力の保持増進に役立てることができるような技術と習慣の獲得も目標とする。 開講する科目は「スキー」、「スクーパーダイビング」など。	
	野外実習 B	数日間の合宿によってスキーやスクーパーダイビングを集中的に実習する科目である。それぞれのスポーツのルール、マナー、特徴を学び、各受講者のレベルに合った技術を修得する。合宿をおして友人と接し、絆を深め、学生生活を一層充実させることを狙うが、生涯にわたって健康と体力の保持増進に役立てることができるような技術と習慣の獲得も目標とする。 開講する科目は「スキー」、「スクーパーダイビング」など。 上記『野外実習 A』を修得後、『野外実習 A』で選択しなかった種目を選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	第1群	地域・国家・民族の考察A	沖縄について、日本文化に影響を与えた中国文化について、日本の各時代の地域（村落と都市）について、オランダと日本の関係について、明治維新における国家の形成についてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、地域の問題、国家の問題、民族の問題、あるいはそれらの相互関係について考えるための道具立てや方法を修得する。 開講するテーマは「沖縄の歴史と文化」、「タイの言語文化」、「中国地域文化論」、「日蘭交渉史」、「日本の歴史地理」、「明治維新と国家形成」など。	
		地域・国家・民族の考察B	沖縄について、日本文化に影響を与えた中国文化について、日本の各時代の地域（村落と都市）について、オランダと日本の関係について、明治維新における国家の形成についてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、地域の問題、国家の問題、民族の問題、あるいはそれらの相互関係について考えるための道具立てや方法を修得する。 開講するテーマは「沖縄の歴史と文化」、「タイの言語文化」、「中国地域文化論」、「日蘭交渉史」、「日本の歴史地理」、「明治維新と国家形成」など。 上記『地域・国家・民族の考察A』を修得後、『地域・国家・民族の考察A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	第2群	女性・子ども・老人への視点A	日本の子どもの歴史、19世紀イギリスのジェンダー、日本の女性史、街中での子供観察など、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、今もって成人男性中心の社会に生きているとも言える私たちが見落としがちな視点、すなわち女性の視点、子どもの視点、老人の視点に気づくことで、女性・子ども・老人への視点を獲得し、社会のさまざまな問題がそれまでとは異なって見えてくることを学ぶ。 開講するテーマは「『フルハウス』に見る子ども心」、「ジェンダー史」、「チャイルドウォッチングで知る子ども心」、「日本こども史」など。	
		女性・子ども・老人への視点B	日本の子どもの歴史、19世紀イギリスのジェンダー、日本の女性史、街中での子供観察など、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、今もって成人男性中心の社会に生きているとも言える私たちが見落としがちな視点、すなわち女性の視点、子どもの視点、老人の視点に気づくことで、女性・子ども・老人への視点を獲得し、社会のさまざまな問題がそれまでとは異なって見えてくることを学ぶ。 開講するテーマは「『フルハウス』に見る子ども心」、「ジェンダー史」、「チャイルドウォッチングで知る子ども心」、「日本こども史」など。 上記『女性・子ども・老人への視点A』を修得後、『女性・子ども・老人への視点A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	第3群	人権・民主主義・平和を考えるA	本講義は、平和学の入門講座として、日本が関わる戦争・暴力の具体的な問題について、多角的な分析を行いつつ、平和の創造への考察を深める。まず「核問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原爆・核兵器を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、被爆70年後の現状と課題を多面的に考察していく。つぎに「原発問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原子力発電・放射能被曝を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、福島原発事故後の現状と課題を多面的に考察していく。 開講するテーマは「平和学A」、「平和学B」など。	
		人権・民主主義・平和を考えるB	本講義は、平和学の入門講座として、日本が関わる戦争・暴力の具体的な問題について、多角的な分析を行いつつ、平和の創造への考察を深める。まず「核問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原爆・核兵器を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、被爆70年後の現状と課題を多面的に考察していく。つぎに「原発問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原子力発電・放射能被曝を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、福島原発事故後の現状と課題を多面的に考察していく。 開講するテーマは「平和学A」、「平和学B」など。 上記『人権・民主主義・平和を考えるA』を修得後、『人権・民主主義・平和を考えるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
全学共通科目	2. 課題(テーマ)科目	第4群	現代社会の諸問題A	「〈個人の自由・権利〉と〈共同体秩序の維持〉のどちらを優先するか」という対立軸によってグローバリゼーション、ナショナリズム、宗教紛争などの政治的諸問題を考えたり、「〈理性と社会進歩を導きの糸とする啓蒙思想〉か〈啓蒙の一面性や弊害を指摘し伝統への回帰を説く保守的反啓蒙思想〉か」という対立軸で戦後日本社会から現在のオタク文化や自閉化した社会までを考えたり、気候変動から歴史の動きを考えたり、生協活動から現代社会の諸相を見たりするなど、現代社会の諸問題を考える新しい視座を学ぶ。 開講するテーマは「環境政策と環境行政」、「気候と変動論から考える日本史」、「生協社会論」、「現代日本経済」、「秩序と公共性」の思想」など。	
		現代社会の諸問題B	「〈個人の自由・権利〉と〈共同体秩序の維持〉のどちらを優先するか」という対立軸によってグローバリゼーション、ナショナリズム、宗教紛争などの政治的諸問題を考えたり、「〈理性と社会進歩を導きの糸とする啓蒙思想〉か〈啓蒙の一面性や弊害を指摘し伝統への回帰を説く保守的反啓蒙思想〉か」という対立軸で戦後日本社会から現在のオタク文化や自閉化した社会までを考えたり、気候変動から歴史の動きを考えたり、生協活動から現代社会の諸相を見たりするなど、現代社会の諸問題を考える新しい視座を学ぶ。 開講するテーマは「環境政策と環境行政」、「気候と変動論から考える日本史」、「生協社会論」、「現代日本経済」、「秩序と公共性」の思想」など。 上記『現代社会の諸問題A』を修得後、『現代社会の諸問題A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。		
	第5群	異文化・世界にふれるA	アメリカ現代文化における思春期の表象について、現代日本文化における「少女像」の変遷について、ヨーロッパの建築文化について、イギリスの階級文化について、日本の西洋化について、異文化としての子どもについてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、異文化および異世界を理解することの出来る能力を養う。 開講するテーマは「海外インターンシップ準備講座」、「解釈学」、「現代文化における思春期の表象」、「西洋文化史」、「中国少数民族」、「東方キリスト教の世界」、「文学と社会」、「文化と環境」、「歴史都市」など。		
		異文化・世界にふれるB	アメリカ現代文化における思春期の表象について、現代日本文化における「少女像」の変遷について、ヨーロッパの建築文化について、イギリスの階級文化について、日本の西洋化について、異文化としての子どもについてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、異文化および異世界を理解することの出来る能力を養う。 開講するテーマは「海外インターンシップ準備講座」、「解釈学」、「現代文化における思春期の表象」、「西洋文化史」、「中国少数民族」、「東方キリスト教の世界」、「文学と社会」、「文化と環境」、「歴史都市」など。 上記『異文化・世界にふれるA』を修得後、『異文化・世界にふれるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。		
	第6群	自己・人間をみつめるA	この科目は、自分を見つめること、ひいては人間を見つめることを学生に促すような、さまざまな仕掛けのある授業である。「愛」や「ことば」をテーマに、異分野の複数教員がパネラーとなって問題提起をして学生によるディスカッションを行い、そのなかで級友や自分の意外な側面を知る。「将棋」や「囲碁」を媒介にして級友や教員や自分の隠れた性格を知る。さまざまな文章を書き、それについてみんなのまえて講評を受けることによって自分を知る。論語を読んで、自分を見つめることを学ぶ。 開講するテーマは「《愛》について」、「現代の大学」、「ことばと人間」、「大学生のための文章表現入門」、「文章の書き方」、「ボランティア」、「論語」、「囲碁と将棋」、「農林漁業と人間関係」など。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	第6群	自己・人間をみつめるB	この科目は、自分を見つめること、ひいては人間を見つめることを学生に促すような、さまざまな仕掛けのある授業である。「愛」や「ことば」をテーマに、異分野の複数教員がパネラーとなって問題提起をして学生によるディスカッションを行い、そのなかで級友や自分の意外な側面を知る。「将棋」や「囲碁」を媒介にして級友や教員や自分の隠れた性格を知る。さまざまな文章を書き、それについてみんなのまえて講評を受けることによって自分を知る。論語を読んで、自分を見つめることを学ぶ。 開講するテーマは「《愛》について」、「現代の大学」、「ことばと人間」、「大学生のための文章表現入門」、「文章の書き方」、「ボランティア」、「論語」、「囲碁と将棋」、「農林漁業と人間関係」など。 上記『自己・人間をみつめるA』を修得後、『自己・人間をみつめるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
		キャリアデザインA	大学は学生にとって社会への移行を直前に控えた最終の学校教育である。本講義は学校から社会へ移行していく学生が主体的に自らのキャリアを形成していくことができるよう、現代社会における労働や雇用問題等を取り上げながら、複数の視点から自らの考えを分類、整理し発言する力や自己アイデンティティの形成、他者との相互関係のなかでの学びのありようなどキャリア形成のための基礎的な能力や態度の育成を目指す。	
	第7群	キャリアデザインB	産業構造や雇用形態、個々人のライフコースの変容により将来を予測することが非常に困難になりつつある現代において主体的にキャリアを形成していくことは非常に重要である。本講義では、現代社会において求められている能力や多様化するライフコース、企業や産業の動向などを学ぶと同時に自らの経験や考え方を整理することにより主体的な将来展望の構築とそのための行動を促す。	
		全学共通特殊講義A	野外自然観察の方法全般について基礎的な知識と技能を身につけること、あるいは報告書をまとめる能力を身につけること、それがこの科目の目的である。生物（植物・動物）、地学（地形・地質）など、自然科学の複数分野を材料にして、実際に野外に出てフィールドワークを行ったり、実験室でまとめたり、レポートをもとにディスカッションを行ったりする。 開講するテーマは「自然観察フィールドワーク」、「科学する」など。	
	第8群	全学共通特殊講義B	野外自然観察の方法全般について基礎的な知識と技能を身につけること、あるいは報告書をまとめる能力を身につけること、それがこの科目の目的である。生物（植物・動物）、地学（地形・地質）など、自然科学の複数分野を材料にして、実際に野外に出てフィールドワークを行ったり、実験室でまとめたり、レポートをもとにディスカッションを行ったりする。 開講するテーマは「自然観察フィールドワーク」、「科学する」など。 上記『全学共通特殊講義A』を修得後、『全学共通特殊講義A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	必修 科目	フレッシュマンセミナーA	フレッシュマンセミナーの目的は学生各人が自らの問題意識を育て、その解決の道筋を探るための「問題解決」能力の基礎を身につけることである。特に、フレッシュマンセミナーAでは大学における学習を進める上で必要不可欠となる基本的なアカデミック・スキルを身につけること主眼としている。具体的には、情報の収集・整理・分析、レジュメやプレゼンテーション・スライドの作成、そして、プレゼンテーションやディスカッションを実施することにより、自らの頭と手を動かしながら大学の学習で必要な基本的なスキルを習得する。	
		フレッシュマンセミナーB	フレッシュマンセミナーの目的は学生各人が自らの問題意識を育て、その解決の道筋を探るための「問題解決」能力の基礎を身につけることである。特に、フレッシュマンセミナーBではグループワークを通じて協調性を身につけることを主眼としている。具体的には、各学生の問題意識を基礎としながら他の学生と協力して準備を進め、プレゼンテーションを行うことによって、2年次以降の社会学演習に必要な基礎的なスキルを習得する。	
		時事英語 1	日本国内と世界の時事問題や社会的事象を題材にして、社会的な視野を広げながら、英語のスキルを養成する。リーディング能力の向上と、英語における論理構成の習得、さらにアウトプットの鍛錬を目標とする科目である。具体的にはアウトプットに備えて、英語でジャーナリスティックな素材の内容把握をし、語彙・文法・論理構成を習得するインプットの鍛錬を徹底して行う。学生は、英文による時事問題を読み解くスキルを磨くことを求められる。	
		時事英語 2	日本国内と世界の時事問題や社会的事象を題材にして、社会的な視野を広げながら、英語のスキルを養成する。リーディング能力の向上と、英語における論理構成の習得、さらにアウトプットの鍛錬を目標とする科目である。具体的には英語でジャーナリスティックな素材の内容把握をし、語彙・文法・論理構成を習得したうえで、学生に問題発見を促す。学生は、グループおよび個人で問題を発見し、それを検討して交代でプレゼンテーションを行うというアクティブ・ラーニングを行う。	
		実用コミュニケーション英語 1	TOEIC®Test等の資格試験を視野に入れながら、その上に会話能力の向上を目指す。リスニング、文法、会話、発音、作文の各能力を養成する科目である。具体的には、旅行、イベントなどTOEIC教材に見られる日常的で実用的な題材のリスニング素材を用いて、語彙増強・発音訓練などを行う。そのうえで短文から成る口頭のサマリーを行う参加型の授業形態をとる。能力別クラスの到達度に応じて、TOEIC®Test320～400のスコアと日常会話を試みる程度の会話能力を到達目標とする。	
		実用コミュニケーション英語 2	TOEIC®Test等の資格試験を視野に入れながら、その上に会話能力の向上を目指す。リスニング、文法、会話、発音各能力を養成する科目である。具体的には、銀行、就職などTOEIC教材に見られる実用的題材のリスニング素材を用いて、語彙増強・発音訓練などを行う。そのうえでその内容に関する想定会話をグループあるいは二人ずつなどで行う参加型の授業形態をとる。能力別クラスの到達度に応じて、TOEIC®Test350～450のスコアと日常会話がある程度可能になる程度の会話能力を到達目標とする。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選 択 必 修 科 目	時事英語 3	日本国内と世界の時事問題や社会的事象を題材にして、社会的な視野を広げながら、英語のスキルを養成する。リーディング能力の向上と、英語における論理構成の習得、さらにアウトプットの鍛錬を目標とする科目である。具体的には英語でジャーナリスティックな素材の内容把握をし、語彙・文法・論理構成を習得したうえで、学生に問題発見を促す。学生は、グループおよび個人で発見した問題の検討結果を論理的に整理して交代でプレゼンテーションとフィードバックを行い、それを踏まえて最終成果を全体で作り上げるというアクティブ・ラーニングを行う。	
		英語で読む現代社会	「時事英語」で培った力をもとに、新聞や雑誌の記事やエッセーなど現代社会に関する文献を読み取るだけでなく、自分自身で文献を探索する力も養う。「時事英語」に引き続き、論理構成と内容を把握し、さらに自ら素材を分析したうえで問題発見に向かう読み方をする。前半は教員から与えられた素材の読み解き方を学び、後半は学生自身で関心がある記事やエッセーを探し、その問題についてさらに調査・検討を深めたうえで、個人研究結果としてエッセーを提出し、その概要を授業内で発表する。	
		実用コミュニケーション英語 3	TOEIC®Test等の資格試験を視野に入れながら、その上に会話能力の向上を目指す。リスニング、文法、会話、発音、作文の各能力を養成する科目である。具体的には、会議、人事などTOEIC教材に見られる実用的題材のリスニング素材を用いて、語彙増強・発音訓練などを行う。そのうえで素材と関連する自由会話をグループあるいは二人ずつなどで行う参加型の授業形態をとる。能力別クラスの到達度に応じて、TOEIC®Test400～500のスコアと日常会話が可能になる程度の会話能力を到達目標とする。	
		実用コミュニケーション英語 4	TOEIC®Test等の資格試験を視野に入れながら、その上に会話能力の向上を目指す。リスニング、文法、会話、発音、作文の各能力を養成する科目である。具体的には営業、広告などTOEIC教材に見られる実用的題材のリスニング素材を用いて、語彙増強・発音訓練などを行う。そのうえで素材と関連してディスカッションやディベートなどを行う参加型の授業形態をとる。能力別クラスの到達度に応じて、TOEIC®Test420～600のスコアと日常会話が可能になる程度の会話能力を到達目標とする。	
		海外英語研修	学部で準備した海外英語研修プログラムに加えて、国際交流センター主催の協定校短期留学、短期英語研修のいずれかを選択し、海外で英語の全スキルの向上をめざす科目である。語学学校やホームステイの場で英語のみに囲まれる環境のなかで、英語習得への現実的で強力なインセンティブが得られることが期待される。渡航前に準備学習として、リスニングと会話を中心としたプログラムを準備する。帰国後は、そのインセンティブを維持しながら、フォローアップとして各種英語資格試験に挑戦するように指導する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	未修 外国 語科 目	ドイツ語初級 1 A	ドイツ語の基礎としての初級文法・表現を学ぶ。まずドイツ語の音とリズムに馴れることから始まり、ドイツ語の基本的文構造を理解し、習得することを目指す。授業の到達目標は、(1)ドイツ語が音読できること、(2)ドイツ語の基本文法を習得し運用できるようになること、(3)平易なドイツ語の文章を読解できるようになることである。また、ドイツ語を学ぶと同時に、各章ごとにテーマとして取り上げられたドイツ語圏の社会・文化についても、説明・補足し、理解を深めていく。	
		ドイツ語初級 1 B	前期の「ドイツ語初級 1 A」を引き継ぎ、ドイツ語の基礎としての初級文法・表現を学ぶ。まずドイツ語の音とリズムに馴れることから始まり、ドイツ語の基本的文構造を理解し、習得することを目指す。授業の到達目標は、(1)ドイツ語が音読できること、(2)ドイツ語の基本文法を習得し運用できるようになること、(3)平易なドイツ語の文章を読解できるようになることである。また、ドイツ語を学ぶと同時に、各章ごとにテーマとして取り上げられたドイツ語圏の社会・文化についても、説明・補足し、理解を深めていく。	
		ドイツ語初級 2 A	週 1 回の授業でドイツ語の初級文法を学び、無理なく平易な文法や会話を着実に身につけていく。授業の到達目標は、(1)正しくドイツ語を発音すること、(2)ドイツ語の初級文法の前半をマスターすること、(3)挨拶や自己紹介など、ドイツ語で簡単な会話ができることである。なお、文法事項の説明は授業形式で行うが、練習問題は演習形式で行う。また、ペアでの会話練習も行い、必要に応じて CD や DVD を使用する。	
		ドイツ語初級 2 B	前期「ドイツ語初級 2 A」を引き継ぎ、週 1 回の授業でドイツ語の初級文法を学び、無理なく平易な文法や会話を着実に身につけていく。授業の到達目標は、(1)正しくドイツ語を発音すること、(2)ドイツ語の初級文法の前半をマスターすること、(3)挨拶や自己紹介など、ドイツ語で簡単な会話ができることである。なお、文法事項の説明は授業形式で行うが、練習問題は演習形式で行う。また、ペアでの会話練習も行い、必要に応じて CD や DVD を使用する。	
		フランス語初級 1 A	教室内で学んだフランス語が実際の場で使えるという実感を味わいながら、文法知識の習得のみに偏らない初級フランス語の力をつけることを目標に授業を進める。聞く、話す、読む、書くという言語行為の全てをまんべんなく繰り返し行えるような授業を実施する。具体的には、毎回必ず声に出してフランス語を発音し、理解した文法事項が日常生活や旅行などで活かせるように簡単な文章を組み立てたり頻度の高い言い回しを覚えていくように努める。実用フランス語技能検定試験 5 級合格程度、あるいはそれ以上の力がつくことを目指す。	
		フランス語初級 1 B	前期の「フランス語初級 1 A」を引き継ぎ、実際の場で使えることが実感できるようなフランス語の授業を行う。実用フランス語技能検定試験 5 級以上の力がつくことを目指して学習する。授業の到達目標は、(1)フランス以外でフランス語を使用する国々についての知識を習得すること、(2)教科書に書かれているフランス語を基にして自分自身で文章を組み立てること、(3)フランス語の音読がさらに流暢になることである。	
		フランス語初級 2 A	教室内で学んだフランス語が実際の場で使えるのだという実感を味わいながら、文法知識の習得のみに偏らない初級フランス語の力をつけることを目標に授業を進める。聞く、話す、読む、書くという言語行為の全てをまんべんなく繰り返し行えるような授業を行う。具体的には、毎回必ず声に出してフランス語を発音し、理解した文法事項が日常生活や旅行などで活かせるように簡単な文章を組み立てたり頻度の高い言い回しを覚えてゆくように努める。実用フランス語技能検定試験 5 級合格程度、あるいはそれ以上の力がつくことを目指す。	
		フランス語初級 2 B	前期の「フランス語初級 2 A」を引き継ぎ、実際の場で使えることが実感できるようなフランス語の授業を行う。実用フランス語技能検定試験 5 級以上の力がつくことを目指して学習する。授業の到達目標は、(1)フランス以外でフランス語を使用する国々についての知識を習得すること、(2)教科書に書かれているフランス語を基にして自分自身で文章を組み立てること、(3)フランス語の音読がさらに流暢になることである。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目 選択科目 未修外国語科目	中国語初級 1 A	ピンイン（中国式ローマ字）の音読練習から始め、単語を覚えた後、文を正確に読めるように指導する。また同時に、練習問題も解きながら、実践・応用力も身につけていく。授業の到達目標は、（１）ピンインを正確に発音すること、（２）発音を聞いて、ピンインが書け、意味がわかることである。上記２つをクリアするためには、中国語の音に関心を持つことが大事である。日本語に近い音もあれば、全くない音もあるので、根気強く練習する。	
	中国語初級 1 B	前期の「中国語初級 1 A」を引き継ぎ、ピンイン（中国式ローマ字）の音読練習から始め、単語を覚えた後、文を正確に読めるように指導する。また同時に、練習問題も解きながら、実践・応用力も身につけていく。授業の到達目標は、（１）ピンインを正確に発音すること、（２）発音を聞いて、ピンインが書け、意味がわかることである。上記２つをクリアするためには、中国語の音に関心を持つことが大事である。日本語に近い音もあれば、全くない音もあるので、根気強く練習する。	
	中国語初級 2 A	中国語初級の語学力を基礎にして、中国語能力を測るバロメーターである「中国語検定試験」に合格できる実力を養成する。主に前期は準４級を目標とする。授業の到達目標は、（１）中国語検定試験準４級レベルの文法事項や発音（ピンイン）を正確に把握し、活用できること、（２）中国語検定試験準４級レベルの語彙を身につけることである。授業は、最初に授業形式で文法事項などの説明を行うが、暗記に結びつく会話練習なども行う。その後、その文法事項に基づいた検定試験の過去問題（模擬テスト）を解いてもらい、教師が採点したのち解説を行う。	
	中国語初級 2 B	前期の「中国語初級 2 A」を引き継ぎ、中国語初級の語学力を基礎にして、中国語能力を測るバロメーターである「中国語検定試験」に合格できる実力を養成する。レベルは４級を目標とする。授業の到達目標は、（１）中国語検定試験準４級レベルの文法事項や発音（ピンイン）を正確に把握し、活用できること、（２）中国語検定試験準４級レベルの語彙を身につけることである。授業は、最初に授業形式で文法事項などの説明を行うが、暗記に結びつく会話練習なども行う。その後、その文法事項に基づいた検定試験の過去問題（模擬テスト）を解いてもらい、教師が採点したのち解説を行う。	
	コリア語基礎 1 A	「コリア語基礎 1 A」は、「コリア語基礎 2 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。コリア語は日本語と文法的に非常に似ている。まず、ハングル文字と発音を学ぶ。正確な発音の習得を心がけたうえで基本文法や文型を学習する。文字と発音の学習ではハングル文字を正確に読み書きできるように練習する。コリア語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的なコリア語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
	コリア語基礎 1 B	前期の「コリア語基礎 1 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「コリア語基礎 2 B」と連携しながら授業を進める。「コリア語基礎 1 B」では、文法と会話を学ぶ。文法と会話の学習では基礎的な文法と日常会話の練習を通じて身につけていく。コリア語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的なコリア語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
	コリア語基礎 2 A	「コリア語基礎 2 A」は、「コリア語基礎 1 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。コリア語は日本語と文法的に非常に似ている。まず、ハングル文字と発音を学ぶ。正確な発音の習得を心がけたうえで基本文法や文型を学習する。文字と発音の学習ではハングル文字を正確に読み書きできるように練習する。コリア語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的なコリア語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
	コリア語基礎 2 B	前期の「コリア語基礎 2 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「コリア語基礎 1 B」と連携しながら授業を進める。「コリア語基礎 2 B」では、文法と会話を学ぶ。文法と会話の学習では基礎的な文法と日常会話の練習を通じて身につけていく。コリア語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的なコリア語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	必修 科目	社会学入門A	社会学の課題を「社会関係を焦点としつつ諸現象を解明すること」として捉え、その基本的発想が社会問題の解明と解決策の提言にどう寄与しうるかを示す。まず社会関係を構成する社会的行為に焦点を当て、その諸類型と、個々の行為類型を相互に比較することから導かれる論点（利害と理念、心情倫理と責任倫理、意識的動機と無意識の欲望など）を解説し、さらにそれらを適用するかたちで現在の日本社会が直面する諸問題を取り上げて分析し、解決策を探る。	
		社会学入門B	社会的行為を個人のうちで東ねる「役割」概念の諸相（役割取得の重要性と危険性、役割葛藤、役割距離など）を論じるとともに、社会集団を「役割のネットワーク」として捉え、社会集団が成立・持続・変容していくメカニズムを、役割の安定化効果と不確実性に焦点を当てつつ明らかにする。親密な小集団（家族等）、アソシエーション、官僚制などの集団諸類型を比較検討し、それぞれが社会において果たす機能と、個人に与える利得と負荷について検討する。	
		社会学の諸相	この科目では、多数の教員による連携方式の授業によって、社会学の重要な研究領域を概観するとともに、本学部のカリキュラムを構成する3コースそれぞれで扱う素材、いくつかの授業内容、考えられる卒業研究テーマなどを紹介し、2年次よりのコース選択の参考にしてもらうことを目標とする。コーディネーター教員による3コース概要紹介に続いて、各コースの担当教員（一人または複数）が、1コースあたり4回ずつ、コースの特徴と魅力などについて解説する。その後で再びコーディネーターが、資格取得のために履修が必要な科目、今後社会学を学んでいく上での諸注意などに触れて、授業を締めくくる。 第1回 インTRODクシヨンー社会学部の狙いと3コースの特徴 第2回 多文化と共生コース(1) コースの特色と狙い 第3回 多文化と共生コース(2) 各教員の研究テーマといくつかの授業内容の紹介 第4回 多文化と共生コース(3) 学習上の留意点 第5回 多文化と共生コース(4) 本コースで習得できることと考えられる進路 第6回 都市と地域コース(1) コースの特色と狙い 第7回 都市と地域コース(2) 各教員の研究テーマといくつかの授業内容の紹介 第8回 都市と地域コース(3) 学習上の留意点 第9回 都市と地域コース(4) 本コースで習得できることと考えられる進路 第10回 メディアと情報コース(1) コースの特色と狙い 第11回 メディアと情報コース(2) 各教員の研究テーマといくつかの授業内容の紹介 第12回 メディアと情報コース(3) 学習上の留意点 第13回 メディアと情報コース(4) 本コースで習得できることと考えられる進路 第14回 本学部で取得できる資格と、そのために履修しなければならない科目 第15回 何のための社会学？ 社会学を学んで何になる？ 担当者：7 馬場靖雄/5回（第2～5、15回）、11 小湊浩二/5回（第1、6～9回）、18 周東美材/5回（第10～14回）	オムニバス方式
		社会統計入門	本講義は統計学の入門として、まず基本的に集計されたデータの特性をとらえる記述統計学から入る。度数分布、分散、標準偏差などの理解と利用が中心である。さらに正規分布、母集団と標本（サンプル）の関係についての知識を得たのちに、標本から母集団の特性を予想する推測統計に入る。母平均・母比率の区間推定の考え方はここでおさえておきたい。なお以上の理解のためには、順列、組合せ、確率に関する高校数学の知識が必要になるため、同時に復習していく。	
		情報処理基礎Ⅰ	この授業科目は、大学での学習・研究を進めるための基礎能力として、コンピュータやオフィス系ソフトウェアの使用方法について実習形式で学ぶものである。前期の情報処理基礎Ⅰでは、Eメールの仕組みやマナー、WWWの仕組みと利用方法、日本語ワープロソフトによる課題レポートや卒業研究論文などの文章作成方法、表計算ソフトの基礎的な使い方を学ぶ。	
情報処理基礎Ⅱ	この授業科目は、大学での学習・研究を進めるための基礎能力として、コンピュータやオフィス系ソフトウェアの使用方法について実習形式で学ぶものである。後期の情報処理基礎Ⅱでは、演習授業で役立つプレゼンテーションソフトによるスライドの作成技術とマルチメディアを活用したプレゼン技術について学ぶ。また、前期で学んだ表計算ソフトの基礎を踏まえて関数やデータベース機能を利用したより高度な使い方などを学ぶ。			

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目		
	社会調査 I	社会調査 I では、社会調査の歴史や目的、方法論といった社会調査の概念と意義について学んでいく。最初に、身近にある社会調査やアンケート調査などの事例を挙げていき、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの社会調査の諸類型について解説する。実際に行われている官公庁の統計調査や学術調査、企業のマーケティング・リサーチなど、様々な社会調査について紹介し、同時に調査におけるデータの収集方法や分析までの諸過程に関する知識を獲得することを目的とする。	
	社会調査 II	社会調査 II では、社会調査の技法について学んでいく。サンプリング手法や調査仮説、調査法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスと科学的・客観的に処理する方法など一連の社会調査の手法を解説する。また、調査倫理等の学習も通じて、社会を見通すスキルとして社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。実際に、サンプリング手法や仮説の設定と検証、質問紙調査票作成などの作成を通して、調査遂行の力を身につけると同時に、統計ソフト (SPSS) を用いたデータ処理技法の修得も目的とする。	
	社会学演習 I	2 年次配当の社会学演習 I では、社会学および社会科学諸部門の専門的な研究の基盤となるような知識および技術を、担当教員の綿密な指導の下で習得する。とくに主題となる領域における最新の現状を把握し、主要な先行研究や対立する議論を整理する。また同領域における主要な研究手法を理解し、また自ら研究できるように基礎的な調査方法等を身につける。本格的な調査研究は 3 年次以降になるが、2 年次から初歩的なフィールドワークや調査実習をおこない、「現場」経験を積むクラスもある。	
	社会学演習 II	3 年次配当の社会学演習 II において受講生は社会学演習 I に引き続き、より専門的な研究へと歩を進める。ここでは既存研究において未解決の課題を抽出し、決着のついていない論争に自ら積極的に関与することにより、知的生産の技術を磨くことになる。本格的なフィールドワークや調査を行い、定説と実態の差異や現実問題の深み、複雑さを学ぶ。また学内外において研究成果を発表してプレゼンテーション能力を養い、4 年次の卒業論文につながるような知見と表現力を身につけることになる。	
卒業研究	卒論作成のためには、テーマを設定し、そのテーマに社会的な意義を見だし、ひとつの仮説をたてる。そして、さまざまなかたちで調査を行いだれもが納得のいく証拠を用意し、論理的な展開をして自分の仮説を証明していく必要がある。そのため各研究室ごとに設定された研究テーマに関連するものの中から、自分で研究課題を決めて取り組む。卒業論文の作成の執筆にあたって、質的または量的調査の実施や資料の適切な使い方が求められる。それゆえ、これまで 3 年間で学んだ資料の集め方、社会調査の仕方、資料の適切な参考の仕方を活用する必要がある。授業のなかで指導教員のアドバイスを参考にして、各自が仮説を証明していくかたちで論文を作成していく。		
選択必修科目①	歴史社会学	暗記としての歴史ではなく、社会学的視点から近現代史に分け入る。主に近代イギリスを扱い、近代社会を機能させてきたさまざまな「制度」や「装置」に目を向けて、ひとつひとつがそのなかでどのように暮らしていったかを検討していく。映像資料も利用しながら、国民の創造、階級社会、自然保護、自治と独立、戦争と記憶、余暇と労働時間、祈り、ことは、伝統の創造、救貧、移動といったテーマを扱う。これにより、社会を見る新たな視座を得ることを目的とする。	
	家族社会学	きわめて私的なもののように思われる「家族」も、さまざまな社会の問題と強いつながりを持つ。家族の姿は歴史のなかで変化してきたし、また文化によっても大きく違う。家族に関する制度や規範、「常識」とは、実は社会毎に異なっているのである。本授業では、家族社会学の基礎的な概念を紹介しつつ、近現代社会における家族の諸相を扱う。「当たり前」と思いがちな「家族」の形が、近代社会の中で形作られたものであることを理解し、多様化していく現代家族の問題を考える。	
	教育社会学	教育を「社会的」に見るとはどういうことなのか、その視角を得ることで何が新たに分かるのか。教育社会学とは、教育という現象を通して社会の姿を描きだし、社会とのつながりの中で教育という営みの意味を考察する学問である。本講義では、学校という制度、社会と教育との関連、学校の外的教育的現象といった大きく 3 つの角度から教育社会学にアプローチし、実証的知見の紹介を通じて教育社会学の基本的な理論や概念を解説する。身の回りの教育的現象や教育問題を理解し、考察するための手がかりを獲得することを目標とする。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目①	格差社会論	近年、「格差」という単語をよく耳にするようになった。「一億総中流」はもはや過去のものであり、日本社会は「格差社会」へと変わったのだろうか。「(社会)階層」という言葉もよく耳にするようになった。この講義では、格差や不平等に関する問題をとらえるために用いられる「社会階層」または「社会階級」という概念を通して、教育、仕事、家庭、人々の意識といった事象を見ることにより、格差や不平等がどのようにとらえられてきたのかを学ぶことで、格差社会とは何か、どうするべきなのかを考えていく。	
	社会学理論A	(社会秩序の生成) 社会学理論の課題を「社会秩序はいかにして可能となるか」という問いを究明することとして捉え、この問いに対する解答を探るさまざまな構想を比較検討し、それらの知見を社会問題の分析のために役立てようと試みる。その第一歩として、カウンセリングにおける家族療法、ダブル・バインド論、ポジティブ・フィードバック、ゲーム理論の初歩(四人のジレンマ、社会的ジレンマ)などを素材として、社会秩序がいかに蓋然性が低く脆弱なものであるかを示す。	
	社会学理論B	(社会秩序の変容) それ自体としては脆弱な社会秩序が、にもかかわらず成立し維持されていくのはいかにしてか。合理的選択理論、エスノメソドロジー、コミュニケーション行為の理論、オートポイエティック・システムの理論などの検討を通して、社会秩序は何かによって可能になるものではなく、社会的諸現象が生起可能になるための前提であることを示す。この観点で、現代社会が直面する「マクドナルド化」や「生活世界の植民地化」などを解明し是正策を講じる上で有効か否かを検証する。	
	社会学史	18世紀に生まれた社会学は当初「社会物理学」と呼ばれた。物理学などの自然科学のように、この学問も人間社会の変動から一定の法則を導き出し、その法則を用いて社会を改善できると考えられたからである。それから200年あまり、常に繰り返す社会変動と社会問題の発生により、当初の目的を達成してはいないものの、社会学はこの世界に対する我々の理解を非常に豊かにしてきた。本講義ではこの点に始まり、デュルケム、マルクス、ウェーバーを経て、現代の著名な社会学理論に至るまでの国内外の社会学の発展を概観する。	
	組織社会学	組織は社会との関係で成り立っている。組織と社会との関係性について学ぶことは、現代社会の構造をみる一つの視点を得ることにもつながる。そのため、本講義では、組織と社会との相互作用と組織の変化を理解するために、主に、組織と環境、組織構造と組織過程、官僚制組織、Open-Close・Rational-Naturalモデル、資源依存論、取引コスト論等の理論について学ぶ。さらに、組織の理論について合理的システム、非合理モデル、制度理論、組織の境界に関して紹介し、社会システムとの関係性についても理解を深める。	
	情報と統計基礎実習	この授業科目は、これまで情報の授業で学んだコンピュータの使い方と社会統計の授業で学んだ統計学を融合させたものである。これは社会調査に必要なスキルと認識してほしい。扱う内容は、平均、中央値、最頻値、度数分布、分散、標準偏差などを表計算ソフトでどのように表現するかといったことから、表計算や統計ソフトで正規分布、母集団と標本(サンプル)の関係、標本から母集団の特性を予想する推測統計の算出等である。統計をコンピュータで処理することにより、はるかに早く正確に出来るだけでなく、簡単に数値の修正と再計算が可能になる。	
	量的調査法	社会調査のうち、統計的計算や数字を用いる「量的調査」に焦点を合わせ、量的調査・量的分析の基礎的な方法について解説する。量的データの分析手法として、T検定、クロス表、分散分析、相関係数、因子分析、回帰分析等といった多変量解析の理論と方法について数学的側面も含めて理解していく。また、統計ソフト(SPSSやEXCELなど)を用いて、履修者が自ら操作する作業を通して、計量分析および分析結果の取りまとめなどの一連の作業を行い、量的調査分析の手法のスキルを修得する。	
	社会調査法	社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、質的調査・質的分析の基礎的な方法について解説する。具体的には、フィールドワーク、参与観察法、聞き取り調査、ライフヒストリー研究、ドキュメント分析等の質的調査法に関する基本的事項を取り上げていく。同時に、質的調査を行う上での「人」との接点の持ち方、関わり方、調査の現場における動き方や調査者に求められる配慮等について体験的に理解し、調査を行う上での心構えや姿勢について自ら考えることができる力を修得する。可能であるならば、受講者の関心対象に応じたフィールドでの聞き取り調査を実施し、質的データの収集と質的分析についての理解を進めていく。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目①	成熟社会 A	(成熟化する現代社会) 本講義は、私たちが日々生活を営む現代の日本社会を社会システム論的視点をベースに政治的側面・経済的側面・社会的側面から解剖し、そこで生じている諸問題の抽出、その諸問題の発現でもある日本の社会システム（制度・慣習・社会的価値観など）の形成などについて「成熟化」をキーワードに構造的な分析の視点やその感性の修得を目標とする。また、これを基礎に、成熟社会論の理論的系譜を踏まえて、社会発展論としての成熟社会論について学ぶ。	
	成熟社会 B	(成熟化と日本型社会システム) 本講義は、まず日本の産業化の歴史をベースに日本型社会システムの形成プロセスについて段階的に追いつながりながら日本型社会システムの特徴を探っていく。さらに、日本型社会システムの構成要素についての分析・検討を通じて、発生している様々な問題とその要因間の相互関連性を検討し、成熟化した現代の日本社会に相応しい社会システムについて構想していく。講義を通じた情報や知識の獲得と、こうした一連の社会の構造に関する分析・検討・創造の手法の修得を目標とする。	
	社会調査実習	本授業では、質問紙法による調査や質問紙面接法による聞き取り調査を企画・実施することを通して、社会調査に関する基礎的な知識や方法を学ぶことを目的とする。まずクラスの共通テーマと、関連したサブテーマを設定する。そして先行研究のレビュー、問題の設定、分析枠組み・仮説の設定、依頼状の作成、調査票の設計、調査の企画を経て実際に調査を実施する。その後は取得したデータを加工・分析し、レポートを執筆する。これら一連のプロセスを経験することで、量的または質的社会調査を実施できるスキルを身につけることを目標とする。	
	Introduction to Sociology (外書講読)	社会科学の古典または社会科学方法論に関する英語またはドイツ語の文献をテキストにして、輪読形式で読み進める。これを通して社会科学系の原書文献を読む基礎力を養成する。たとえばPopper, K.R., "Objective Knowledge: An Evolutionary Approach", 1972, Rev. ed., 1979. のような文献を考えているが、履修者の能力や関心に適したものを選ぶ予定である。	
専門教育科目	国際社会学	私たちの生きている「社会」の範囲はどこからどこまでなのか、どのように形成されるのか。仮に「国」が社会の単位だとすると、その国境はいかに線引きされ、変更され、維持され、あるいは書き換えられるのか。それらの境界を越えて移動するヒト・モノ・カネ・情報・文化は、その境界の内側と外側をいかに変えてゆくのか。誰が境界を越え、誰が境界内に留まるのか、それらの間にはどのような関係があるのか。他の越境するものについてはどうか。本講義は、学生諸君とともにこれらの問いに答えようとするものである。	
	多文化社会論	私たちは個性や多様性を尊重するといいつながら、異質な他者を仲間はずれにしたり、同調を強制したりする。現代社会における民族的・文化的・性的その他様々なマイノリティの増大は、同質性を基盤とする社会秩序に対する挑戦なのだろうか、それとも未来社会の予想図なのだろうか。多文化社会を論ずるには、マイノリティの苦労話や美談に反映された一面的な「多様性」を讃えるだけでは不十分である。むしろ私たちがなぜこれまで個性や多様性を蔑ろにしてきたか、またなぜ現在も同調を強制しているのかについて考察する。	
	ジェンダーの社会学 A	(近代社会とジェンダー) 男女のありかたや役割の違いとされるものは、生物学的違いによって自然に決まるのではなく、社会や文化のなかで作られ、さまざまな制度、仕組み、慣習のなかに埋め込まれてきたものである。本講義では、19世紀以降を中心とした歴史的な展開を踏まえてジェンダーを考える。産業化を経て近代国家が形作られるなかで、「男らしさ」、「女らしさ」といった要素は、階級や人種といった他の要素とどのように結びつき、社会に影響を与えてきたのだろうか。現代にも残る格差との関連をみつめつつ探る。	
選択必修科目②	ジェンダーの社会学 B	(現代社会とジェンダー) 男女のありかたや役割の違いとされるものは、生物学的違いによって自然に決まるのではなく、社会や文化のなかで作られ、さまざまな制度、仕組み、慣習のなかに埋め込まれてきたものである。本授業では、20世紀を中心とした歴史的な展開を踏まえてジェンダーを考える。二度の世界大戦を経て現代社会が生まれる過程で、「男らしさ」、「女らしさ」といった要素は階級や人種といった他の要素とどのように結びつき、また変化していったのだろうか。現代社会のありかたを問い直しつつ探る。	
	多文化と共生コース 必修科目		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目② 多文化と共生コース 選択必修科目	文化人類学	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例をとおして、現代社会における文化や伝統のありかたについて学ぶ。文化人類学の基本的な考え方を理解し、それらを基に身のまわりの「あたりまえ」を再考し、社会で生起する事象を多面的な視点から捉えられるようになることを目指す。日本と異文化の比較を通じ、自己表象と他者表象、民族とエスニシティ、観光と文化の関係等のテーマを軸に講義を進めていく。具体的なフィールドワークの事例も多く紹介しながら、一次資料からどのように理論が導かれていくのか示していく。	
	文化社会学	現代社会におけるコミュニティのありかたを、祭礼や芸能の側面から検討する。祭礼にはコミュニティやネットワークのありかた、ジェンダー、逸脱、さまざまな力関係等の問題が反映され、社会を映す鏡といえる。当該地域が抱える問題とその対応方法を、その社会的・文化的背景も含めて理解できるようになることを目指す。講義では、日本各地で行われる祭礼をフィールドワークによって得たデータを基に取り上げる。そのうえで、グローバル化が進むなかでのコミュニティのあり方等について、多面的に検討していく。	
	ケアの社会学	「具体的な他者を対象に、その存在の意欲を喚起・回復・維持することを目的になされる支援行為（関心、気遣い、配慮、世話など）」。「このようにケアを定義し、家族をはじめとする親密圏、学校、医療、福祉施設などにおける支援や援助行為に着眼し、ケアを成立・持続・安定させる心理的、社会的な諸条件について考える。ケアする側の「動機の問題」、ケアされる側の「依存の問題」、ケアを管理する学校や医療施設の「環境の問題」や「倫理の問題」等に関して、具体的な臨床事例に依拠しながら、総合的な考察を試みることになる。	
	環境社会学A	(循環型まちづくり) 台所と農業をつなぐ循環型まちづくりの事例（山形県長井市「レインボープラン」）を取り上げ、その実践から環境問題を社会的に考察する視点、つまり社会的価値観や規範、まちづくりとそのため運動などについて提示する。その視点を踏まえ、環境問題の歴史的展開（「公害」から「環境」へ）とその特徴、環境社会学の代表的研究分野を概観する。そのなかでは環境社会学におけるフィールドワークの意義と実証研究の重要性にもふれる。	
	環境社会学B	(環境汚染と社会) 水俣病事件は今日に至っても何一つ解決をしていない。被害の全貌、とりわけ被害者数も明らかではない。被害者の認定や補償問題は紛争状態を呈し、加害をめぐる責任も曖昧なままである。「それまで人類が経験したことのない」水俣病について、概要、通史、環境汚染、被害の構造、原因企業チッソと自治体・国の対応などを取り上げる。水俣病事件のメッセージを読み解き、現代の環境汚染（原発など）との重なりを学ぶ。	
	宗教社会学	世界では「宗教」を原因とする対立が激化している。しかしそもそも宗教とは何なのだろうか。宗教社会学は、宗教をひとつの社会構造として捉え、社会学の立場から考える学問である。例えば、ウェーバーはキリスト教のプロテスタントの考え方が、現在の資本主義経済を生み出す大本であったと考えた。このように宗教は文明の原動力となってきた。さまざまな文化を理解し、多文化が共生していくために、宗教は重要なカギとなる。本講義では、世界のいくつかの宗教を概観し、神学や細かな教義ではなく、むしろ社会行為としての宗教を分析する。	
	環境政策論	本講義では、排出権取引と環境税を中心に最新の情報に基づいた論点を紹介し、地球温暖化問題に対して感情論だけでなく現実を見据えた議論を行う基盤を学生に提供する。具体的には①地球温暖化問題の現状と将来予測、②同問題への国際的取組、③同問題への対策としての経済的手段、④EUや日本における排出権取引、⑤環境税の各国の現状、⑥日本における環境税、⑦環境税の課題（理論的意味、効果、物価への影響、リンケージ問題など）、⑧既存エネルギー税制との関係、⑨環境税の租税法の観点からの問題点等を紹介する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目② 都市と地域コース 必修科目 選択必修科目	都市社会学	本講義の目的は、都市に関する社会学の基礎的概念の解説を行い、都市化に伴う地域社会の変動、及び、現代都市社会の諸問題に幅広く捉える視点を養うとともに、解決に向けた様々な取り組みに関する知識を提供し、問題を検討する能力を育成することである。特に、人口減少に伴い縮退する都市社会が抱える様々な課題、例えば、コミュニティの弱体化、社会的な孤立の深化、地域社会の活力の減退、居住環境の維持向上などに対する市民社会の有する潜在的な可能性について、まちづくりの取り組み事例を通して考える。	
	地域デザイン論	本講義の目的は空間と社会が有機的に連関する地域をデザインするための基礎的な考え方や手法について解説を行い、豊かで持続可能な地域社会を実現する地域再生について考える能力を育成することである。特に、世界各地で研究、実践が行われている「クリエイティブ・リージョン」や「ラーニング・リージョン」をはじめとする、地域のイノベーションを促進する地域デザインの取り組みについて具体的な事例を通して理解し、現在、様々な課題に直面する地域を再生するための方法論について考える。	
	地域社会学A	(人口減社会における地域社会の姿) 地域社会学Aでは、地域、地域社会、コミュニティ、町内会・自治会など地域社会に関する主要な基礎的概念の解説と都市化、過疎化、グローバル化、自治のあり方などの地域社会の変化に関わる用語の解説を行う。また、地域社会を巡る様々な論点～少子化・子育て、高齢化・介護、防災・災害復興、地域の消費、担い手、買い物弱者～についての現況を解説していく。それらの課題から、現代社会と地域社会との結びつきの在りようについて考える力を修得させることを目指していく。	
	地域社会学B	(地域社会の課題とその解決にむけて) 地域社会学Bでは、地域社会学Aの講義を踏まえて、現代社会が抱えている地域課題の解決に向けて行われている事例を取り上げ、今後の人口減社会が到来する中での地域社会のあり方について分析・考察できるような知識と応用力を修得することを目的とする。地域社会の活性化に向けて行われている具体的で実践的な事例(国内および国外の事例の紹介)から、地域活性化の手法や地域社会を分析する視点を身につけ、今後地域社会の一員として活躍するためのスキルを修得する。	
	福祉医療政策	少子高齢化という社会変動がもたらした最大の問題が、福祉・医療問題である。言い換えればこれは、人口問題から経済問題へとその焦点をシフトさせるものであり、既存の福祉・医療制度の改革を提起するものである。本講義では、まず介護保険、保育制度、医療制度、年金などについて世界の先進事例も含めながら、わが国の福祉・医療制度の現状を学んでいく。さらにこれを基礎に、今後の日本の福祉・医療政策について熟考するための知識の修得を目指す。	
	ソーシャルキャピタル論	本講義の目的は社会の様々な営みに影響を及ぼすと考えられているソーシャル・キャピタル(社会関係資本)という考え方やその実態について事例研究を通して理解することで、複雑で多様な社会現象を理解する能力を育成することである。特に、現代の地域社会が直面している様々な課題、例えば、高齢者の介護や見守り、子育てや教育、防災や防犯などの具体的なテーマにおけるソーシャル・キャピタルの重要性について理解したうえで、ソーシャル・キャピタルを構築するための方法について考える。	
地域福祉論	本講義では、児童や高齢者、障がい者といった属人的分野ではなく、また個別の福祉課題でもなく、いままぜ地域福祉なのかについて地域福祉の理念を概括し、その目的や意義を確認する。そして、住民の社会的生活の困難を軽減・除去する複数の主体と協働に着目し、幅広く事例を取り上げる。次に地域福祉計画に目を向け、計画策定に必要な人的・物的資源について解説し、計画作成の流れとポイントに関して学ぶ。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
都市と地域コース 選択必修科目 専門教育科目 ② メディアと情報コース 必修科目	地方自治	人々の生活は「地方自治」や「自治体」を抜きに考えることはできない。ごみ問題や福祉、まちづくりはもちろん、産業や文化にも、地方自治や自治体は深く関係している。ただ、地方自治の仕組みは複雑である上に、対象とする領域分野が広いため、多くの人にとって分かりにくいものとなっている。この講座では、地方自治に関わる基本的な仕組みを取り上げながら、市民の立場から自治体のあり方を考え、地方自治制度の変革も展望する。	
	行政学	行政学に理論的関心と実績的関心の二つの視点があるとすると、この講義は行政の実績を中心とするものである。日本においては、1980年代から行政改革が進み、省庁再編や情報公開など行政運営の基本に関わる様々な制度改革が行われた。さらに、福祉や環境、教育など個別の行政分野においても、抜本的な改革が進んでいる。受講生は、その中から近代行政機構のもつ根本的問題に気づくはずである。その後、行政における基本的組織原理である官僚制について考察し、行政管理の基本と行政と政治との関係を学ぶこととする。	
	財政学A	(経費論) 都市で起こる様々な現代的な問題を解明するために経済・財政面からそのしくみや問題を明らかにしていく。この授業では国や地方公共団体による公共サービスの提供とそれに必要な財源の確保について学ぶ。とくに財政学Aでは、1) 資源配分、2) 所得再分配、3) 経済安定化といった財政の役割、財政支出の内容、予算の編成、公共財の性質、財政政策の効果、公債負担論など具体的なテーマを取り上げて制度と実態の理解を目指す。	
	財政学B	(租税論) 都市で起こる様々な現代的な問題を解明するために経済・財政面からそのしくみや問題を明らかにしていく。この授業では国や地方公共団体による公共サービスの提供とそれに必要な財源の確保について学ぶ。とくに財政学Bでは、1) 納税者にとって公平であり、2) その選択行動に影響が少なく、3) 納税しやすい簡素な租税システムとは何かを考えていく。そのため、租税原則、公平や中立などの概念、我が国の税制の特徴など具体的なテーマを取り上げて制度と実態の理解を目指す。	
	情報社会論	コンピュータで情報を扱うための基礎となるデジタル化について、その基本概念を理解し、ビットやバイトといった情報量や、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアについて知る。また、インターネット（ウェブ）、メールといったネットワークシステムにも触れ、その仕組みや、近年社会問題にもなっているセキュリティ対策について理解を深める。加えてデータベースシステムについて扱い、現在主流となっているリレーショナルデータベースの仕組みや、論理演算を利用したクエリー記述言語（SQL）についても触れる。	
	情報科学概論	ソフトウェアサイエンスに関する基本概念について解説する講義形式の授業である。コンピュータで問題を解くとはどういうことかを考え、コンピュータで解ける問題・解けない問題の違いとアルゴリズムの概念を理解する。また、数理的な手法によるモデリングと計算方法を理解し、大規模計算が様々な科学において果たす役割について理解する。具体例として遺伝的アルゴリズムやニューラルネットワークなどのアルゴリズムを用いた問題解決の実例、火災延焼や津波を再現した数理モデルによるシミュレーションの実例について紹介する。	
	マスコミュニケーション論A	(人間への影響) マスコミュニケーションは、社会や人間にどのような作用をもたらしているのだろうか。この授業では、近現代社会におけるマス・コミュニケーションが社会と人間に与える影響を理解するため、効果研究、テキスト論、社会心理学、複製技術論、ネットワーク論などの諸分野における種々のコミュニケーション理論を学習し、また、情報行動をめぐる調査研究・事例研究、オーディエンス研究、アーカイヴス学などの社会調査の方法と成果を学習していく。	
	マスコミュニケーション論B	(産業への影響) マスコミュニケーションは大衆社会と結び付きながら、独自の産業と文化を形成していった。この授業では、印刷、録音、映像、放送などマス・コミュニケーションをめぐる各種のテクノロジーに注目しながら、ファッション誌、音楽産業、ハリウッド映画、テレビ番組などといった大衆文化がどのように歴史的に形成されていったのかを学習していく。その際、これらの大衆文化について、文化産業論、文化帝国主義論、カルチュラル・スタディーズなど、知がどのような批判を投げかけていったのかについても理解していく。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メディアと情報コース 選択必修科目② 選択必修科目	情報システム	我々の生活基盤を構成する情報機器や現代の社会基盤を構成する情報システムについて、個々の原理や関連技術を理解し、合わせてその歴史や将来の展望を知ることが目的とした講義である。講義を通じて、あらゆる情報がデジタル化されコンピュータ処理されていることの意味を知り、ビジネスの分野だけでなくマスメディアや行政、学術・教育福祉など様々な分野において情報システムが活用されている現状を理解する。技術面だけでなく、倫理面やコンプライアンス、法制度の現状にも着目する。	
	マルチメディア論	情報技術は、近現代社会を複雑化・多様化させてきた。なかでも現在のデジタル技術は、コミュニケーション、制度、知の構造、身体感覚、芸術の表現形式等といった様々な領域に大きな変化をもたらしている。この授業では、情報社会論、メディア環境論、デジタル・ヒューマニティーズ、感覚文化論等、社会学が情報技術をめぐって蓄積してきた代表的な理論と方法を学習する。そのうえで、それらの理論と方法を個別の事例に応用し、現代社会を批判的に理解していく基礎的な能力を身につける。	
	統計解析基礎	統計学の知識を利用しつつ実際の統計データを分析し解釈する学問が統計解析であり、その意味で統計学の中でもっとも実践的な分野である。統計解析には多様な分析法があり、目的とデータのパターンからいかなる分析が可能かつ適当かを見出すことの重要性を知る。中でも2つ以上の変数の因果関係を明らかにする回帰分析を中心として進めていく。なお回帰係数、決定係数などの導出には高校数学の微分の知識を必要とするため、同時に復習していく。	
	統計解析応用	調査や開示された個票データを用いた回帰分析は今日の社会科学では中心的な位置を占めるだけでなく、ビジネスにも援用される応用性をもっている。「解析応用」ではExcelやSPSSなどの表計算ソフトを用いて、「基礎」より多面的な統計解析を試みる。回帰分析は、重回帰、ダミー変数、ロジスティクス回帰に進む。データのパターンから、いかなる処理が適切かを判断することも、きわめて重要になってくる。さらに母平均、母比率、回帰係数の検定など、標本から得られた仮説の真偽の判定を、理論的・実践的に学んでいくものである。	
	メディア社会	メディア社会を論じるためには、マスメディア研究やメディア理論をめぐり領域を個別に学習すればよいわけではなく、社会学全体のフレームのなかでメディアの問題がいかなる意味をもっているのかを、総合的に判断していく必要がある。本講義では、都市論、コミュニティー論、ネットワーク論、社会運動論、消費社会論、ジェンダー研究、サブカルチャー研究、カルチュラル・スタディーズ、社会調査法等の社会学の諸領域を横断しながら、それらとメディアとがどのように関わっているのかを理解し、基礎的な能力を身につける。	
	ジャーナリズム論A	(ジャーナリズムの変遷) ジャーナリズムは、近代民主主義の根幹を成す言論活動である。市民革命期には表現の自由と出版の自由が要求され、新聞は権力を批判・監視する機能を担い、公共性の基盤となった。しかし、その産業化と大衆化に伴って大組織化とマスメディア化が進み、ジャーナリズムが担うべき世論形成や社会統合の機能を果たせなくなっていった。この講義では、近代ジャーナリズムの形成過程や政治的理念などについて学習し、その今日的な限界や問題点を理解していく。	
	ジャーナリズム論B	(ジャーナリズムの現状) 現代のジャーナリズムはいくつもの困難に直面している。また、21世紀に入ると、社会の新たな情報基盤としてインターネットが台頭し、ジャーナリズムのあり方に変化をもたらしている。この授業では、情報環境の変化、グローバル化、マイノリティーの社会運動などの背景を踏まえ、メディア・リテラシー教育、ジャーナリスト教育、ドキュメンタリー映画、インターネット時代の世論形成などの多様な展開を視野に収めることで、オルタナティブなジャーナリズムのあり方を理解していく。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目③ 共通関連科目	心理学概論A	(心の仕組みと働き) 心理学は、人間が感じ、考え、行動するメカニズムを科学的に解明しようとする学問である。この講義では、心と脳、感覚・知覚、記憶、学習、思考、情動、動機づけ、性格、発達などに関する各領域の理論および研究を取り上げる。心理学の主要分野の研究成果を広く浅く学ぶことで心理学を概観し、その基礎的知識を養うことによって、人間の心と行動の諸側面を客観的に理解するとともに、他人や自分の行動についての洞察力を養うことを目的とする。	
	心理学概論B	(社会の中の心と適応) 心理学は、人間が感じ、考え、行動するメカニズムを科学的に解明しようとする学問である。本講義では、社会的認知、自己、社会的影響、集団、発達の病理と援助、ストレス、心理的障害、カウンセリング、行為障害、睡眠などに関する各領域の理論および研究を取り上げる。心理学の主要分野の研究成果を広く浅く学ぶことで心理学を概観し、その基礎的知識を養うことによって、人間の心と行動の諸側面を客観的に理解するとともに、他人や自分の行動についての洞察力を養うことを目的とする。	
	スポーツ社会学	学校部活動や子どものスポーツから競技スポーツ、プロスポーツさらには地域のスポーツ、高齢者のスポーツ、障害者のスポーツなど、世の中には大小様々な体育・スポーツに関連する社会が形成されていて、それらが、それぞれ固有の課題を抱えている。本講義では、各社会が過去あるいは現在抱えるさまざまな課題に関して、その背景を探るとともに、課題解決に向けた取り組みや、それらを社会がどう捉えているかといったことなどを学習することにより、社会におけるスポーツのあり方について考える。	
	スポーツ心理学	スポーツ心理学はスポーツに関する人間の心理的現象を扱う心理学の一領域と位置づけられ、「スポーツスキルの制御と学習」「パーソナリティ」等の心理学的基礎から「競技者・指導者の心理」「メンタルトレーニング」等の競技力向上を目的とした内容が含まれる。本講義では、スポーツに関する心理学的諸事について広範囲に学習し、スポーツにおける「こころ」の重要性を理解し、それらを「からだ」の諸現象と関連させることによって、様々なスポーツの場面で良好な活動を推進するための心理学的アプローチについて探求する。	
	ミクロ経済学A	(経済主体の行動) 人や組織を、家計・企業・政府という経済主体に分け、各主体のとりべき選択や最適な行動、その原因・結果としての状態を分析するのがミクロ経済学である。すなわち均衡する価格、数量、消費者の満足、企業の利潤などである。それによって限りある資源をいかに用いて財・サービスが生み出され、それがどのように配分されるかが科学される。本講義では、まず市場が均衡することの意味について学ぶ。そして家計の最適消費、競争市場が十分に機能する場合における企業の利潤最大化の理論などについて学ぶ。	
	ミクロ経済学B	(市場の失敗) 本講義では、「あるべき状態」といった規範的な見方を取り入れていく。それには今の状態がどの経済主体にとってどれほどの利得なのかという経済余剰や、複数の主体の利得を考慮するパレート最適の概念が重要である。そして、もし現在の状態に改善の余地があるならば、それを可能にする方策の有無やその考え方について学ぶ。特に、独占、市場の失敗、外部性など、競争市場が十分に機能していない場合などでの資源配分について考える。	
	マクロ経済学A	(財市場と貨幣市場) 利率や国民所得などの資料を手がかりとして、なぜ失業が生じるのか、景気が悪くなるのかという疑問を出発点に、本講義ではそのメカニズムを理論的に理解できるようすすめる。最初に三面等価の原則、物価指数やインフレーションから国民経済計算の基礎を確認する。ついで財市場について45度線分析や国民所得の決定を学び、貨幣市場について貨幣需要と貨幣供給によって決定される利率などを考える。	
	マクロ経済学B	(金融政策と財政政策) 利率や国民所得などの資料を手がかりとして、なぜ失業が生じるのか、景気が悪くなるのかという疑問を出発点に、本講義ではそのメカニズムを理論的に理解できるようすすめる。IS曲線とLM曲線による分析や、日本銀行（中央銀行）とハイパワードマネーや金利政策を学ぶ。その上で、金融政策と利率、財政政策と乗数計算、減税政策の効果などの財政金融政策の有効性について考える。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 必修 科目 ③	選択 必修 科目 ③	共通 関連 科目	キャリアの社会学 「働くこと」は、日本社会や人びとの人生にとって重要な位置を占めている。就職活動をめぐる報道を見ても学生が上手く「働く」社会へと着地することが一大事であることがよく分かる。本講義では、日本社会において企業に雇われて働くという雇用社会化がどのように進行し、どのように変化しているのかを、「雇われて働く世界」と「雇われない世界」との比較や、過去との比較、海外の事例との比較など具体例を交えながら紹介し、それとともに「人と仕事」との関係がどのように変化しつつあるのかを社会学的観点から考察していきたい。	
			経営学概論A (企業と経営) 近年、グローバル化の進展やステークホルダーからの要請が増大するなど、企業をとりまく環境は大きく変化している。その結果、企業の経営活動も変わってきている。私たちは、企業から、さまざまな製品・サービスの提供を受け、現在の私たちの生活において、企業との関係は深く切り離せないものとなっている。「企業の経営活動を見ることは、社会を見ること」といっても過言ではない。そのため、本講義では、「企業がどのような原理や原則に基づいて存在し活動しているか」を中心に学ぶ。	
			経営学概論B (経営と組織) 組織は社会との関係で成り立っている。組織と社会との関係性について学ぶことは、現代社会の構造をみる一つの視点を得ることにもつながる。そのため、本講義では、組織と社会との相互作用と組織の変化を理解するために、主に、組織と環境、組織構造と組織過程、官僚制組織、Open-Close・Rational-Naturalモデル、資源依存論、取引コスト論等の理論について学ぶ。さらに、組織の理論について合理的システム、非合理モデル、制度理論、組織の境界に関して紹介し、社会システムとの関係性についても理解を深める。	
			コミュニケーション論 ICT等の情報技術の発展により、コミュニケーションの方法は、これまで以上に多岐にわたるようになり、近年、ますますその重要性が増している。本講義では、コミュニケーションについて、その研究の背景、理論、歴史の変遷について学ぶ。具体的には、コミュニケーションの基本的概念、コミュニケーションの類型、コミュニケーションのレベル、言語非言語のコミュニケーション、対人コミュニケーション、小集団コミュニケーション、マス・コミュニケーション、異文化コミュニケーション等である。	
			社会システム論A (ミクロ) 社会システムを、コミュニケーションのネットワークによって成立する統一体として捉え、秩序を伴うこの統一体がいかんして成立するかを原理的に考察する。対面的相互行為において生じる不確定な「二重の偶発性」が克服され、秩序あるコミュニケーションへと整序されていくメカニズムを、前近代社会と近代社会における「愛」「美」「信頼」などをめぐる言説と実態を素材としつつ比較検討し、現代社会における日常的コミュニケーションが直面する問題について学ぶ。	
			社会システム論B (マクロ) 近代社会を、経済・政治・法・科学などの機能分化した諸社会システムよりなる複合体として記述し分析する。各システムは独自のコード(基礎となる二分図式)と機能に準拠することによって閉じられ自律化しているが、それゆえに相互に前提としあい依存しあっている。18世紀西欧で成立した機能分化社会という体制が、情報化とグローバリゼーションによって大きく変化しつつある21世紀社会においてどのように持続し変容しているかを、特に法・政治・マスメディアを素材として学ぶ。	
			社会科学の歴史A (国家・社会の中での個人) 社会や国家は、ふだんの私たちには自明のものとして、あるいは人によっては関係ないものとして受け取られている。この授業では、そのような社会や国家の成立根拠をあらためて問い直すために、主に政治思想の歴史的展開の中で、国家・社会と個人との関係がどのようにとらえられてきたかを取り上げる。国家・社会とそこで生きる個人との関係を初めて学問的に取り上げたアリストテレスの思想と対比して、自然学的方法によって社会を捉えようとしたホッブズの思想やここから展開していく近代社会契約論の思想の特徴がどこにあるのか、つかんでもらいたい。	
			社会科学の歴史B (自由に活動する個人と社会) 近代社会契約論の思想が広まって以降、国家・社会は、個人を前提とし、個人が集合して形成されるものと捉えられるようになった。この見方からすれば、社会のあり方は社会構成の究極的単位としての個人の意思に基づいて決まることになる。個人の自由な活動によって社会はどのように形成されているのかを主題として、フランス重農主義やアダム・スミスによって経済学的な研究分野が開拓される。このことを確認した上で、19世紀以降の社会諸科学の哲学からの分化展開を跡づけるなかで、その方法論をめぐって20世紀になされてきた議論を検討していく。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 関連 科目	公共政策論	本講義では、まず、近年話題となっている「新しい公共」の概念も含めて、政治経済学的な視点から公共政策に関する基礎を学ぶ。さらに、それをベースに都市や地域で展開されている諸々の公共政策の現状や問題点などについて考察し、公共政策を実現していくための主体や基準のあり方、資源の調達方法、費用負担のあり方などに関する知識の習得を目指す。	
	行動分析学A	(実験的行動分析学) 行動分析学の目的は、人間を含む生物全般の行動を、環境的要因との関係の中で実証的に明らかにすることにある。本講義では、バラス・スキナーによって提唱された行動分析学の基本的発想と展開を概観するとともに、人間および動物の行動における法則性・規則性を、オペラント条件づけなどの環境操作手法を用いて明らかにしようとする実験的行動分析について講じる。受講者には、自発的に見える人間の「こころ」と、動物とも共通する行動パターンとの複雑な関係について考えるための基礎的視角を習得してもらいたい。	
	行動分析学B	(応用行動分析学) この講義では、実験的行動分析によって得られた知見に基づいて、問題を孕む人間行動を解明し修正することを目指し、応用行動分析学について学習する。行動分析の手法は、近年注目を浴びている発達障害に対する療育や環境保全をはじめ、教育や組織マネジメント等、さまざまな分野へと適用・展開が可能であるが、いずれにおいても問題を単に概括的・抽象的・倫理的に論じるだけでなく、実験的行動分析の場合と同様に、常にエビデンス（証拠）に基づいて議論を進めることが肝要となる。	
選択 必修 科目③	国際関係論	国際関係論ならびに国際社会研究の方法論について講義する。国際社会とは何か、そこでの現象や作用のしくみを明らかにするため、また社会を構成している外交・国際法・大国・戦争・抑止などの法的・政治的行動原則・制度が果たす機能を明らかにする。そのための方法として、政治学・経済学・社会学・思想史・国際法学・社会人類学などの固有体系を持ったdisciplinesが「共同研究」する場が国際関係論である。相手国の視点からも検討できるempathy（相手の立場に立った想像力）をもち、巨視的視点からも微視的視点からも議論できるような分析枠組みを修得する。	
	サブカルチャー論	「サブカルチャー」と聞いて思い浮かべるイメージは時代や世代、性別、趣味嗜好、文化によって異なるものであろう。サブカルチャーの理論的・歴史的背景から説き起こし、サブカルチャーと見なされる具体的な作品分析を通して、どのように時代思潮やメディア文化の特質、受容層ライフコースの変遷、消費文化などの観点を読み込むことができるかを探っていく。海外の事例を参照することにより、比較文化の側面にも力点を置く。さらにサブカルチャーのこれからの可能性をどのように志向することができるのかについても検討していく。	
	地域研究（アジア）	地域研究の方法について、アジアを事例に講義する。例えば、ある一国の経済について考察する時、その国の政治・社会・歴史・文化などさまざまな側面との関連の中でとらえなければ、正しい理解には近づけない。どの側面を取り上げる際にも、「一国丸ごと理解」という姿勢を重視するのが地域研究の特徴である。しかし、経済のグローバル化が進む現在、従来の地域研究の方法だけでは不十分である。本講義では、グローバル化時代の新たな地域研究の方法についても展望する。	
	地域研究（中東）	現代の中東世界では各種の地域紛争が連続して勃発し、EUを揺るがす難民問題や、石油の安定供給をめぐるエネルギー問題など、国際的な難問を生じさせている。こうした状況の原因を正しく把握するためには、中東各国の政治的動向を理解するだけでなく、様々な対立の背景にある文化的・イデオロギー的な要因、すなわちイスラームの教義と世界観を深く理解しなければならない。この講義では、中東に暮らす人々の大半が信仰し、その信念の源泉となっているイスラームの教えを多面的に捉え、彼らの発想方法を分析することに主眼を置く。	
	教育心理学A	(発達の心理) 本講義は、保育・教育に携わる者にとって必要とされる「発達」に関わる基礎的な心理のプロセスや概念と理論について学んでいく。具体的には、人間の一生涯の発達プロセスを理解することを通して、保育や学校現場における子ども（児童）の行動の背景にあるこころの働きに関する理解を深めていく。発達に関する基礎概念や理論を踏まえて、保育・学校現場における子ども（児童）の行動の背景にあるこころの働きを説明できるようになることを目標とする。	
専門 教育 科目	選択 必修 科目③	多文化 と共 生 コ ー ス 関 連 科 目	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目③ 多文化と共生コース関連科目	教育心理学B	(学習の心理) 本講義は、「教育心理学A」で得た保育・教育に携わる者にとって必要とされる「発達」に関する基礎知識を踏まえて、特に「学習」や「学び」に関わる教育心理学の基礎概念や理論について学んでいく。講義の後半では、教育現場における心理的問題などにもふれつつ、これらの知識を活用した教育実践や学びの支援のあり方についても考えていく。教育心理学に関わる基礎概念や理論を踏まえて、保育・学校教育を始めとした実践現場での深い子ども（児童）理解や、「学び」の支援方法を考えられるようになることを目標とする。	
	環境経営	企業と社会との関係は日々変化し続けている。特に、環境経営など環境保全や循環型社会構築の領域で顕著に現れている。地球環境保全の取り組みについて理解することは、現在と未来の社会を読み解くことに他ならない。本講義では、企業の環境経営の背景とフレームワークについて学ぶことで、この「環境」という新しい時代における企業活動について理解することを目的としている。	
	社会心理学A	(群集心理の基礎) 社会の中、集団の中、組織の中、対人関係の中で個人が相互に影響を受ける心の動きを学ぶ。自分が嫌いな相手からは好かれることが難しいように、自分が相手を認めたならば自分も相手から認められることを好意の返報性という。この原則はよく恋愛やビジネスへ応用し、広く知られている。本講義ではこの返報性の原理、いざというときにみんなで行動を起こさない傍観者効果、異論を認めずみんなと同じ方向へ歩みだす斉一性の原理など、群集心理を理解するための基礎を学ぶ。	
	社会心理学B	(流行と広告) 社会の中、集団の中、組織の中、対人関係の中で個人が相互に影響を受ける心の動きを学ぶ。社会心理学Bでは集団行動、つまり、群集心理と宣伝や流行について取り上げる。ある時期に群集が同じような集団行動をおこす心理的な状態はどうして生じるのか。流行が発生し、成長し、成熟し、衰退するという一連の流れの中で、どの段階で流行を取り入れるのかによってグループを分類することができる。この流行の成り立ちや要因を社会心理学的に分析し、さらに広告や宣伝の効果と役割について説明することで、群集心理を理解したい。	
	社会階層論	高度経済成長期には中卒でも「金の卵」と呼ばれたのに、現在では大卒でも満足な仕事に就けないことがある。この現状をどのように理解したらよいか。本当に格差は拡大しつつあり、若者が上の階層に上がるのは今後ますます困難になっていくのか。社会階層論では家族形成・教育達成・職業達成が世代間で循環あるいは移動する仕組みについて考察する。特に経済・文化・社会関係各々の結節点である家族が、チャンスとリスクの中でとっていき選択について学生諸君とともに考える。	
	地域研究（北米）	アメリカ大衆文化を代表する「フォーク・ソング」（民衆の音楽）という概念が示しているように、自由・平等・民主主義を標榜するアメリカの理念を民衆の視点から問い直し、政治・社会的な問題を提起する伝統と方法論がある。アメリカ文化史を概観することにより、地域文化の特色、人種・階級・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる社会的な諸問題や変遷など多民族多文化社会アメリカを展望する。グローバル化の中でのアメリカ中心主義に対する批判、カナダ、南アメリカ諸国をも含めた「アメリカ」概念の捉え直しについても取り上げる。	
	地域研究（ヨーロッパ）	一般に「ヨーロッパ」とされている地域には、フランス、ドイツ、スペインといったさまざまな国家が、そしてフランス語、ドイツ語、スペイン語といったさまざまな言語や文化が共存している。しかし、そもそもヨーロッパとは何なのだろうか。地理的なまとまりだろうか。共通の歴史的・文化的基盤だろうか。それともE.U.が目指しているような経済的・政治的結びつきだろうか。本講義では、歴史・文化・社会など多方面から「ヨーロッパとは何か」という問題にアプローチする。	
	セクシュアリティ	本講義では、ジェンダーやセクシュアリティにかかわる研究や知識の蓄積を踏まえ、性にかかわる諸相を見ていく。性は「自然なもの」、「私的なもの」だと思いがちだが、性に関する事項は文化的・社会的なものであり、文化・社会・時代が異なれば認識やありかたも多様である。日本でも近年、性についての考え方や価値観は大きく変化し、「性的マイノリティ」や「LGBT」といった性のありかたに関心が高まっている。私たちが常識とし、自然とみなす性のありかたを多面的に検証し、当たり前としてきた「性」のありかた・価値観を問い直す。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
多文化と共生コース 関連科目 選択必修科目③ 都市と地域コース 関連科目	エスニシティ	エスニシティとは、言語や習俗などの一連の文化的共通性を意味する。日本語の「民族性」は通常、客観的かつ長期不変の特徴と考えられているが、その文化内容は常に変容し、個人の帰属意識も時と場所によって変わるものである。本講義では、エスニシティの形成、境界を維持・再構築する法政治システム、マジョリティによるマイノリティの包摂と排除、支配と従属、差別、アイデンティティ、そして「同化」の問題などを取り上げ、これらに派生して生じている社会問題を学生諸君とともに考える。	
	民法A	(民法体系の基礎) 民法は、私たちの日常の市民生活に関わっている法律である。社会学を学び、その知識を活かして仕事をしようとするときには、市民生活に関連する法律知識も不可欠である。例えば、人間関係を権利義務関係としてとらえること、所有権というルール、様々な契約やそれら契約上のルール、不法行為に関するルール、夫婦・親子・相続など家族生活に関するルールなどである。さらに、新たな市民生活上の課題に関する知識も必要となる。民法は、市民生活に関する基本的なルールであり、市民生活あるいは社会生活の多面に関連している。本講義では、民法のシステムについて基本的な知識を習得すると同時に、広く社会についての知見を広め、それらへの法律的な見方や経済過程をも含めた広い社会的な視野を養うことを目的としている。	
	民法B	(民法の役割と機能) 本講義は、判例や時事的なテーマも加え、民法のより広い理解や市民生活のトラブルに対するより詳細な制度の理解を目標としている。今日では、人間の生活あるいは人間社会における活動が他の様々な事象に与える影響も考慮しなければならないため、社会システムも含めて、民法や法システム全体の役割や機能を考える必要がある。さらには、本社会学科に設置された3つのコースにおける学びに対して、どのような知識が必要であるのかについて見通しを持てるようにすることも目標としている。	
	産業心理学A	(動機づけと人的資源管理) 産業心理学とは、働く場面における人間行動を心理学的視点からアプローチする、応用かつ実践的な心理学の一領域である。産業社会の変化に伴い、働く人々の意識や行動、さらには生活場面においても様々な変化が生じている。この講義では、ワークモチベーション、人事評価、安全、キャリアに関する各領域の理論および研究を取り上げ、組織で働く従業員の態度や行動のメカニズムについて、心理学的視点をもとに理解することを目的とする。	
	産業心理学B	(人間関係と消費行動) 産業心理学とは、働く場面における人間行動を心理学的視点からアプローチする、応用かつ実践的な心理学の一領域である。産業社会の変化に伴い、働く人々の意識や行動、さらには生活場面においても様々な変化が生じている。この講義では、コミュニケーション、リーダーシップ、ストレス、マーケティングに関する各領域の理論および研究を取り上げ、組織で働く従業員の態度や行動のメカニズムについて、心理学的視点をもとに理解することを目的とする。	
	コミュニティ心理学	コミュニティ心理学とは1966年のボストン会議で生まれ、従前の心の治療から予防に転換し、周囲の環境に目を向けてコミュニティの変革を促す学問としてスタートした。現在のコミュニティ心理学では、コミュニティを地域という一定の場所や地理的なものにとどめず、関係的あるいは機能的コミュニティに広めてネット上のコミュニティなども含めたかたちで扱っている。本講義では、人をとりまく環境が人の行動に影響を与えているという関係の中で、どうコミュニティに介入・援助していくのかを検討する。また、より実践的なテーマとして子育て支援、家庭内暴力、地域における高齢者のケアなど現代社会の問題解決について何ができるのかを扱っていく。	
	都市・地域政策論	本講義の目的は都市・地域政策に関する基礎的概念の解説を行うとともに、現在、縮退が進行している都市や地域が直面している課題を幅広く捉える視点を養い、その解決策を検討する能力を育成することである。特に、ガバナメント(統治)からガバナンス(協治)へという地域運営のあり方の変化にともない、その重要性が増している市民(組織)やNPOをはじめとする様々な地域の担い手による地域協働を促進する都市・地域政策のあり方について、具体的な事例を通して考える。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目③ 都市と地域コース関連科目	NPO/NGOの社会学	いま、「新しい公共」が社会をつくる力として注目されている。NPOやNGOは、行政や企業ではできないサービスを提供することにより、「持続可能な社会」や「相互扶助的な市民社会」をつくっていく市民公益団体である。本講義では、まず、受講生にとって関心のある課題を解決するために模擬NPOを設立してもらう。そして、数ヶ月間実際に活動してその振り返りをするることによって、NGOやNPOについて理解を深めてもらい、それに関わる知識の習得を目指す。	
	地方財政論	都市で起こる様々な現代的問題を解明するために、経済・財政面からそのしくみや問題点を明らかにしていく。地方政府の歳入および歳出構造、地方公共財の適正水準、地方税や地方債の制度、国から地方への財源移譲、そして各地で独自に設定している法定外目的税など具体的なテーマをあげて学ぶ。この講義を通じて、今、日本の地方政府が抱えている財政問題を理解できる力を養う。	
	金融論	本講義の目的は、金融の仕組みや金融現象の解明を通して、現代経済の構造や動向を理解することである。まず、金融について理解するにあたって不可欠な「信用」という概念を取り上げた後、銀行制度や金融理論、中央銀行の役割や金融政策などについて解説を行う。さらに、具体性を引き上げるため実際にある国内外の金融にかかわる状況、例えば、金融危機や量的緩和政策などについて取り上げ、その背景や問題点等に関する知識の修得を目指す。	
	産業社会学A	本講義では企業行動に関する知識を、法、財務、経営、企業行動の理論などの点から学ぶ。利益最大化を使命とする企業の古典的理理解から、さまざまなステークホルダーの束としての側面の理解を深めるとともに、その財務的指標の基礎を学ぶ。損益計算書と貸借対照表は、今日では金銭の出納のあるあらゆる組織に伴うものであり、その読み方と作成原理はおさえておきたい。	
	産業社会学B	産業連関表を中心に学ぶ。これは今日、産業と雇用、環境問題など結ぶ重要な分野となっている。例えば「100万円の車には何円分の鉄鋼が投入されているか」といった産業の相互連関を一国・都道府県で明らかにし、そこから「車の売れ行きが1億円増加すると見込まれると、鉄鋼生産はどれだけの影響を被るか」といった経済波及効果などを予測する分析である。これが今日では雇用創出や環境負荷の計算に応用されている。これに先立ち、国・県民経済計算、所得水準の決定等、前提となる知識について述べる。	
	消費者政策	消費者の権利を尊重し、その自立支援を基本理念に、消費者利益の擁護と増進を図るための総合的な施策を消費者政策という。その目的は、国民の消費生活の安定および向上を確保することにある。消費者政策を学ぶことの意義は、単に学習者自らが消費者被害の当事者にならないという消費者被害の未然防止に止まらず、公正で持続可能な消費者市民社会の実現に必要な消費者力（自立した消費者市民として社会的な役割と責任を自覚し、社会環境の変化に対応して必要な生活環境を醸成する能力）を身につけて、社会の安定と発展に寄与する人材を育成することにある。	
	観光社会学	本講義の目的は現代社会における観光のあり方及び観光の重要性について学び、観光という社会現象を客観的かつ批判的に分析するために必要な基本的視点を獲得することである。特に、現在、様々な形で展開する観光という営みを具体的な事例としてとりあげ、観光が元来有している特徴と現代の消費社会における特徴の双方を相対的に理解することによって、これからの「観光」のあり方について考える。合わせて、観光という切り口から現代社会への考察を深めることを目的とする。	
	行政法	現代社会において行政の役割は増大し、私たちの生活の様々な部分まで関わっている。本講義では、まず、国および地方公共団体等の行政主体の役割とその活動の枠組みに関する行政組織法、行政作用法等について解説する。さらに、行政活動が私たちの権利や自由を不当に侵すことなく進められることを確保するために制定されていることを理解し、私たちの権利が侵された場合の救済方法としてどのようなものが考えられているかに関わる知識の修得を目指す。	
	子ども福祉論	子ども一人ひとりの豊かな育ちを保障するためには、そのための社会的いとなみが不可欠である。子どもの育ちに関する理解を乳幼児期の生活する姿に求め、その育ちを促す環境、または阻害する社会的課題を各論として展開する。家庭環境、遊びの環境、保育の質や制度、子どもの貧困、社会的養護等々がそれにあたる。育つ主体に関する学問的エビデンスと育ちを促す環境や支援を学際的に取り上げる。子どもの最善の利益、その実践、そして社会の姿を多面的に探究する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
都市と地域 関連科目 選択必修科目③ メディアと情報 コース関連科目	障がい福祉論	「障がい」の問題を生活する上での様々な困難として捉え、その不自由や苦手な部分を環境がどのように緩和し得るかを考える。「障がい」理解の一步は、当事者とのかかわりに始まるが、授業として取り入れるのは難しい。そこでICFの人間の生活機能と障害、障害者基本法、障害者差別禁止法、障がい福祉の思想などを紹介し、障がい観や自立観について考察する。また、地域で生活するグループホームの実践を取り上げ当事者や運営スタッフの話しを交え、先の障がい観の検証を行う。	
	心理学基礎実験A	(知覚と思考) 心理学の対象は心であるが、誰も心を直接見ることができないので、行動を手がかりに心の様子を推測する必要がある。そこで、ある条件下での行動を観察、記録していくのが心理学の実験である。これまで感覚、知覚、学習、思考などの分野では実験による立証が多用されてきた。本授業は、脳や眼の特性から反転図形のルビンの盃の見え方について学び、パプロフによる実験から古典的条件づけと学習について学ぶなど、実験を例示して心理学の実験とは何かを学ぶ。その上で、教室の中でミューラー・リヤー錯視や視差の研究など受講生自身が交互に被験者となりながら実験を行う。	
	心理学基礎実験B	(情緒と行動) 心理学の対象は心であるが、誰も心を直接見ることができないので、行動を手がかりに心の様子を推測する必要がある。そこで、ある条件下での行動を観察、記録していくのが心理学の実験である。記憶、認知、情緒、動機などの分野でも実験が重ねられている。例えば視床下部腹内側核を損傷したラットの実験例から摂食行動の動機付けについて学ぶことができる。また、心理学では激しい感情のことを情緒とよぶが、この情緒は人の表情を観察していくことで実験が可能である。そこで教室の中で顔記憶の研究、ストループ効果の研究、プライミング効果の研究など受講生自身が交互に被験者となりながら実験を行う。	
	マスコミ史	マスコミュニケーションは、近代社会の民主主義と公共性の根幹を成している。マスコミュニケーションは近代国家の基盤となるべく制度化され、また資本主義の進展とともに産業化されていった。本講義では、新聞、出版、放送、映画等といった個別のメディアの成立と変容の歴史を学習し、現代のマスコミュニケーションが直面している問題について理解を深める。その際、日本のみならず、欧米や東アジアの諸地域におけるマスコミュニケーションの展開を視野に入れ、オルタナティブなメディア社会のあり方を構想する力を養う。	
	臨床心理学	臨床心理学とは、人の悩みや心の苦痛について理解して和らげるための心理学である。いわゆる臨床心理士は、カウンセラーとしてこれらの心の苦しみを聞いて解放する役目を担っている。例えばもっとも身近なところの病である神経症（ノイローゼ）には、何か一つの事にこだわったり、不安になったり、犬が怖かったりとその症状に応じて恐怖症、不安神経症、強迫神経症、ヒステリー性神経症、抑うつ神経症、離人神経症、心気症と7つの診断名がある。多くは何らかのきっかけから症状が続くことになるが、離人神経症や心気症はそのきっかけがはっきりせず症状がはじまる。本講義ではこういった誰にも起こりうる心のバランスの崩壊に対して、心の安定を導くための活動について学ぶ。	
	心理統計学	心理学研究を進めるなかで、被験者の協力のもと実際にデータを収集し分析する工程がある。この授業では、とりわけ心理学研究のための統計的分析手法について学ぶものである。はじめは集めたデータを度数分布で表し、代表値や変化量を求めて、相関関係を散布図で見せるといった基礎的なことから始める。そのうえで、標準偏差とその解釈について学び、回帰直線を導きだして予測値を求める。どのような確率でどんな値を示すかの分布図を作成できる能力を身につけ、サンプルデータから母数を推測する検定および推定の方法を修得する。これら心理学調査実験に役立つスキルを身につけることを目標とする。	
	情報ネットワーク	TCP/IPやウェブ、メールといった各種プロトコルなど、インターネットの基盤技術であるネットワーク階層（OSI基本参照モデル）について演習を通じて理解する。加えてルータやハブ、無線LAN、あるいはNASなどネットワークを物理的に構成する機器の種類や役割を知り、自分でネットワーク環境を構築できるスキルを身につける。また、データの暗号化、電子証明書、デジタル署名、VPN、セキュリティ（不正アクセス）といった保護技術についてもその仕組みを知る。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目③ メディアと情報コース関連科目	広告論	<p>広告は、企業のマーケティングや政治的プロパガンダ等、多様なあり方を伴って現代社会に存在している。現代社会における広告の存在と意味を理解するためには、社会心理学的な効果研究の諸成果を踏まえつつ、シンボリック相互作用論、オーディエンス研究、記号論等の諸成果を参照することが欠かせない。本講義では、これらの理論的フレームを総合的に学習し、そのうえで広告をめぐる具体的な現象を分析していくことで、高度に情報化した社会に対する批判的かつ創造的なりテラシーを養っていく。</p>	
	ビッグデータ論	<p>ショッピング、駅の利用、メール・SNSの送受信など、あらゆる人間行動が大量、多種、多頻度にデータとして蓄積される社会において、それらのデータの解析が人間にとって単に有用であるだけでなく、医療、環境、気象などといった領域で必要不可欠なものとなっている。本講義ではビジネスや人間生活に応用可能なデータ処理の方法及び、データ分析の技術者、実務家、研究者を目指す学生向けのための高度な分析手法を教授する。</p>	
	コンテンツ産業論	<p>メディア技術は世界の様々な社会へと展開していくが、その利用法、生み出される表現様式、産業化のあり方等は、それぞれの社会によって多様である。現在の日本型コンテンツ産業が、「カワイイ」などという語によって特徴付けられるようになった背景には、メディア技術をめぐる近代日本社会に特有の価値意識やイデオロギーが作用していたと考えられる。本講義では、具体的な資料を駆使して日本型コンテンツ産業の形成と変容の歴史を実証的に検討しながら、テクノロジーと意識の関係を解明していく。</p>	
	プログラミング基礎	<p>前半ではビジュアルプログラミングツールを利用してインタラクティブアニメーションを題材に簡単なアルゴリズムに触ることにより、プログラミングの概説と論理的思考力の訓練を行う。後半は実際のプログラミング言語を用いて、演算、変数、繰り返し、条件分岐といった一通りの基礎プログラミング技能を習得し、応用プログラミングへの橋渡しとする。各単元を理解するだけでなく、与えられたテーマを元にプログラムを組み立てられるスキルを身につける。</p>	
	プログラミング応用	<p>基礎プログラミング技能を習得した学生を対象に、オブジェクト指向プログラミングの習得を目的とする。ウェブプログラミングを題材に、DOM（ドキュメント・オブジェクト・モデル）を理解し、各種ライブラリやウェブAPI、HTML5技術の活用方法を知り、応用ウェブアプリケーションの制作に挑戦する。パソコンだけでなくスマートフォンやタブレットといったモバイル情報機器向けのアプリケーション制作も想定した実用的なスキルを身につける。</p>	
	ネットワークコンピューティング	<p>社会調査・フィールドワークを実践する際にクラウド（インターネット）やウェブを活用できるスキルを身につける。インターネットを活用して情報収集を行う、データを回収する、ウェブで成果を公開するといった一連の社会調査に必要な要素およびその周辺技術を単元とし、ネットワーク技術がより広範囲の調査に有益であることを理解する。また、社会調査の題材として、ウェブコンテンツそのものを対象にデータ処理・分析する演習を通じてネットワークコンピューティングの持つ可能性に触れる。</p>	
	知的財産法	<p>知的財産法とは、知的財産の保護と利用について定めた法分野である。そして、知的財産とは、技術的、文化的かつ知的な創造活動の成果のことをいう。その成果を創作した人の財産として保護するものが知的財産権制度である。本講義では、知的財産法の法概念と目的、法体系と保護、法制定の背景と歴史、権利、今後の展開について学ぶ。知的財産権について、知的財産基本法、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法、知的財産権制度について紹介し、知的財産の保護目的、保護対象、保護方法、権利の発生の視点から整理し理解を深める。</p>	
	実験社会心理学A	<p>(対人関係) 社会心理学は、社会的存在としての人間の心の機制（メカニズム）を解明することをめざすが、同時に単に抽象的思弁に終始することなく、各種の実験を行いつつ実証的な議論を行ってきた。傍観者実験、認知的不協和実験、観察学習実験、吊り橋実験など、これまで行われてきたいくつかの名高い実験と、そこから導かれた学説およびそれを応用した事例分析を紹介し、さらにわれわれが日々経験している身近な出来事が、それらの実験によってどのように理解できるかを感得してもらうことをめざす。</p>	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目③	メディアと情報コース関連科目 実験社会心理学B	(社会集団) 実験結果を集約し考察を加える手続きについて確認した上で、環境問題や格差と貧困、各種の差別、災害時の行動など、現代社会において緊要のものとなっているいくつかのテーマについて、実験に裏づけられた社会心理学の理論によってどのような分析と対処法の提案をなすのかを考える。社会的ジレンマ、分配的公正、社会的手抜き、内集団と外集団、対人認知の偏り、うわさとパニックなどに関する学説と事例分析や提言を、常に実験データによる裏付けを伴うよう留意しつつ論じていく。	
	情報処理実習	CUIベースのシェル操作の実習を通じてOSやファイルシステムについての理解と、コマンドラインによるデータ処理に習熟することを目的とするものである。Unix系OSであるiOSのシェル、およびWindows上でのCygwinのシェルの2つを題材として、ファイル操作とUnix系OSのファイル構成を理解する。また画像・音声や大量のデータをコマンド実行やスクリプトで簡単にバッチ処理できることを実感し、その応用可能性について探る。さらにWindowsのファイル構成との違いを知り、様々なOS環境においても適切に対応できるスキルを身につける。	
専門教育科目	社会学特殊講義 I	(マンガ文化の社会学) マンガ(コミックス)文化は世界で様々な発展を遂げているが、そのあり方は時代によって、文化によって多様であり、「マンガ」と一口に言っても、政治風刺マンガ、カートゥーン、コマ割りマンガ、ストーリーマンガ、劇画、エッセイマンガ、グラフィック・ノヴェルなど多岐にわたるジャンル、サブジャンルを伴っている。そもそもマンガとはどのようなメディアであり、マンガを研究することによって社会や文化をどのように探ることができるのか。マンガ文化を歴史的に展望し、メディア社会学の観点から批評的に分析する手法を身につける。	
	社会学特殊講義 II	(テレビ文化の社会学) マスメディアの中でもテレビは中心的な役割を担ってきたが、メディア環境の変化、視聴者のライフスタイル、趣味嗜好の細分化に伴い、テレビや大衆のあり方も大きく変容しつつある。その動向を受け、メディア・スタディーズの中でもテレビ研究は飛躍的な進展を示している。「リアリティTV」や「ドキュメンタリードラマ」と称されるテレビメディアならではの手法、「バラエティ番組」などのジャンルの発展形成史、放送倫理と公益性、視聴率や視聴環境などを中心に、他のメディアと比較考察しながらテレビというメディアの特性を捉え直す。	
選択科目	キャリア支援特殊講義 I	(グローバルイングリッシュ I) 英語上級者を対象として学生のキャリア形成上有効な英語資格試験TOEIC®の高スコア獲得をめざす科目である。受講資格として英検2級をすでに取得しているか、近いうちに取得できる程度の英語力を持つことを条件にする。上級者を対象とした少人数クラスとすることで、集中して実力を養成する。具体的には授業でTOEIC®教材を用いながら、自宅学習としてe-learningを併用し、短期集中的に英語力アップをめざす。短期目標を与え、確実にスコアをアップさせながら、TOEIC®600~650点を目標とする。	
	キャリア支援特殊講義 II	(グローバルイングリッシュ II) 英語上級者を対象として学生のキャリア形成上有効な英語資格試験TOEIC®の高スコア獲得をめざす科目である。受講資格として英検2級をすでに取得しているか、TOEIC®スコア550点程度の英語力を持つことを条件にする。上級者の少人数クラスとすることで、集中して実力を養成を行う。具体的には授業でTOEIC®教材を用いながら、自宅学習としてe-learningを併用し、短期集中的に英語力アップをめざす。短期目標を与え、確実にスコアをアップさせながら、TOEIC®スコア650~700点をめざす。	
	キャリア支援特殊講義 III	(オフィススペシャリスト I) 事務職をはじめとする実務処理に必要な日本語ワープロのパソコン技能修得を目的とする。具体的には国際民間資格であるMOS(マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト)資格のワード2013・エクスペート(上級)レベルへの到達を目標とする。資格対策テキストをなぞるだけでなく、社会調査で実際に用いる文書を題材とする演習を行い、講義レポートや卒業論文(卒業制作)にも活用できる技能を早い段階で身につける。資格取得を奨励し、資格認定科目としても位置付ける。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択科目 キャリア支援特殊講義科目	キャリア支援特殊講義Ⅳ	(オフィススペシャリストⅡ) 事務職をはじめとする実務処理に必要な表計算のパソコン技能修得を目的とする。具体的には国際民間資格であるMOS(マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト)資格のエクセル2013・エキスパート(上級)レベルへの到達を目標とする。資格対策テキストをなぞるだけでなく、社会調査で実際に用いるデータを題材とする演習を行い、講義レポートや卒業論文(卒業制作)にも活用できる技能を早い段階で身につける。資格取得を奨励し、資格認定科目としても位置付ける。	
	キャリア支援特殊講義Ⅴ	(日本の企業社会) 目標: 持続可能な消費と社会の実現のための企業行動とエシカル消費(倫理的消費)について学ぶ。この授業は、公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)と大東文化大学とが協働で開講する連携講座であり、毎回異なった講師で全15回の講義を行うオムニバス方式の講座とする。講師は、ACAPに加盟する約600の会員企業・団体からACAPと大東文化大学が協議のうえ、人選を行い、依頼する。この授業では、まず受講する学生たちが現代日本企業の経営戦略や企業活動の現状を通して実体経済を理解するとともに、将来の進路選択とキャリア形成の一助とする。併せて、持続可能な消費と社会の実現を目指して、学生たちが自らの選択と行動が現在および将来の世代にわたって倫理、社会、経済、環境に影響を及ぼすことを自覚し、公正で持続可能な社会の形成と改善に主体的・能動的に参画する消費者市民として成長するよう、その教育的支援として実施する。	
	キャリア支援特殊講義Ⅵ	(現代の企業社会) 多くの学生が企業で働くことであろう。自身のキャリアの大きな部分を占める「企業とはなにか」について学び考えることには意義がある。企業は、社会の中で活動をしており、その経営行動は社会に適応するために変化する。例えば、近年では、環境問題、グローバルイゼーション、CSR、ステークホルダーへの対応等である。そのため、本講義では、企業そのものの仕組みを学ぶとともに、社会との関係で変化する企業のダイナミズムについても見ていく。	
	キャリア支援特殊講義Ⅶ	(生協社会論) 本講義では、現代日本社会が抱えている少子高齢化、格差・貧困、雇用、生活リスク、災害リスクなどの問題に対して、生活協同組合がどのような取組みを行っているか。また今後どのような取組みを行っているかとしているのか。生活協同組合の事業や社会活動の具体的な事例を通して現代社会の実態と諸課題を学び、理解するとともに、学生のキャリア形成に役立てることを意図する。さらに消費者市民社会の実現のために生活協同組合を中心とした協同組合に何ができるのか、を学生とともに考える。	
	キャリア支援特殊講義Ⅷ	(マスコミ・広告) マスコミ関連企業として、新聞、通信、出版、放送、広告業に興味がある学生を対象とする。いわゆる業界研究に近い内容となるが、このような業種は社会にどのような影響を与える仕事なのか、マスコミには具体的にどのような仕事があるのか、その仕事内容や働き方はどのようなものなのか、どのような問題意識をもつ必要があるのかなどについてを学ぶ。加えて、マスコミ志望者には欠かせない、読解力と論述力を訓練する指導をするほか、マスコミ各社が入社試験によく採用している論文作成の指導も行う。マスコミ志望の学生を対象にマスコミ業界への就職活動を支援し、業界に対する知見を養う。	
	インターンシップ	インターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を指す。本授業では、①事前学習としてインターンシップの意義や狙い、心構え・マナー等に関する講義を受講し、②そのうえで実際にインターンシップに臨んでもらい、③インターンシップ終了後は事後学習として、インターンシップでの体験等を学部インターンシップ報告会で発表し、報告会参加に関するレポート作成・提出をしてもらう。この一連のプログラムを通じて、社会・組織と個人、仕事と個人の関係性について理解を深めてもらうなどキャリア形成に関わる知識の習得を目指す。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	選 択 科 目	研 修 科 目	社会活動Ⅰ (社会学会運営委員会) 社会活動の目的は受講生が自ら企画を立案、実施、検証、報告を行うことを通して、学生自身の実践的な学ぶ力を育成することである。社会活動Ⅰ(社会学会運営員)では、社会学部の教員及び学生により構成される研究組織である「社会学会」の運営を通じた実践的な学習を行う。具体的には、「ゼミラボ：ゼミ説明会」「フレッシュマンセミナー発表会」「ゼミ年次報告会/卒論発表審査会」という学会行事の運営を行う。特に、各行事において一つの「セッション」の企画運営を行うことで、自らの学びを進展させる。	
			社会活動Ⅱ (ボランティア) 社会活動の目的は受講生が自ら企画を立案、実施、検証、報告を行うことを通して、学生自身の実践的な学ぶ力を育成することである。社会活動Ⅱ(ボランティア)では、学内外におけるボランティア活動への参加(合計10日間)を通じた実践的な学習を行う。具体的には、ボランティア活動の参加前に自身の活動目的やテーマを設定し、活動に参加し、さらに、活動終了後に活動報告書の作成、及び、報告会における発表を通して自らの活動を検証する。これら一連の活動を自主的に実施することによって自らの学びを進展させる。	
			社会活動Ⅲ (海外視察) 社会活動の目的は受講生が自ら企画を立案、実施、検証、報告を行うことを通して、学生自身の実践的な学ぶ力を育成することである。社会活動Ⅲ(海外視察)では、海外における視察の実施(合計5日間)を通じた実践的な学習を行う。具体的には、海外視察の目的やテーマを設定し、視察を実施し、さらに、視察終了後に視察報告書の作成、及び、報告会における発表を通して自らの活動を検証する。これら一連の活動を自主的に実施することによって自らの学びを進展させる。	
			海外研修A (まちづくり) 海外研修は、グローバル化する世界の動向とローカルな現象を繋ぎ合わせながら、いわゆる「グローバル」な視点をもって、日本社会の将来の姿について思考する能力を修得することを目的としている。特に本研修では、都市・地域(再)開発、地域産業の創出、省エネ対策、廃棄物問題への対応、有機農業の実践・展開等をはじめとした都市や地域の振興や再生を目指した活動を理解し、先進的な取り組みを行っている現場を視察・体験し、日本の都市や地域の将来を創造していくための学びを深化させる。	
			海外研修B (多文化と共生) 海外研修は、グローバル化する世界の動向とローカルな現象を繋ぎ合わせながら、いわゆる「グローバル」な視点をもって、日本社会の将来の姿について思考する能力を修得することを目的としている。特に本研修では、研修現地の歴史・文化・自然等に触れ、多文化や異文化、世代や民族・人種等を越えた共生を目指し営まれている市民生活を視察・体験し、将来の日本社会を創造していくために必要とされる新しく広い価値観を獲得するための学びを深化させる。	
			国内研修A (農業とまちづくり) 山形県長井市の「台所と農業をつなぐ循環型まちづくり」レインポーランについて事前学習、現地研修(3泊4日)、事後学習を通じて学ぶ。この場合の「循環」とは、「台所から集められた生ゴミ⇒堆肥⇒田畑の土を豊かに⇒健康な作物⇒台所」という構造を意味するものである。市街地に居住するの5,000世帯(市全体は9,000世帯)大半がが参加し、約230箇所が集められた生ゴミは、堆肥化され、化学肥料や農薬を抑制した土による農産物が地元へ流通(学校給食、市民市場「虹の駅」、JA直売所、等々)している。住民が主体となった食と農にかかわる循環型まちづくりの実態を農業体験や現地視察、ヒアリングなど通して学習する。	
			国内研修B (地域振興) この授業では沖縄の特殊事情と経済的振興について学ぶ。日本で最も西に位置する沖縄県は、亜熱帯地域であるという自然的事情、本土から遠いという地理的事情、かつて太平洋戦争後に米軍支配下であった歴史的事情、いまだに米軍施設が集中しているという社会的事情の4つの特殊事情がある。そのため沖縄振興に関しては特別な経済的配慮が続けられてきた。この配慮について県民の目と県外の目の2つの視点から考えるため、本土との経済格差や在日米軍基地、観光開発の問題などについて事前学習を行い、現地で聞き取り調査や見学を実施する。現地視察後に、事前学習と現地調査の結果を受講者自身がまとめて成果物を作成する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
活動 コース	フィールドワーク A	本学への新入の留学生を対象にして、日本人学生（本学東松山キャンパス）について、実際に日本人学生にインタビューをして理解する。授業では、毎回さまざまなトピックを取り上げ、日本人学生の回答と留学生の回答の比較から、日本人学生の大学生活を送る上での価値観について、クラス全体で考えていく。コースの最後に、授業で考えた内容を参考に自分なりの日本人学生へのメッセージを発表してもらい、その発表の内容を日本語のレポートにして提出してもらう。	
	フィールドワーク B	本学入学後半年ないし1年以上の留学生を対象にして、日本人学生（本学東松山キャンパス）について、実際に日本人学生等にインタビューをして、より理解を深める。授業では、毎回さまざまなトピックを取り上げ、日本人学生の回答と留学生の回答の比較から、日本人学生の大学生活を送る上での価値観について、クラス全体で考えていく。コースの最後に、授業で考えた内容を参考に自分なりの日本人学生へのメッセージを発表してもらい、その発表の内容を日本語のレポートにして提出してもらう。	
外国人留学生に関する日本語科目等 内容 コース	日本の政治・経済・社会 A	近代日本が生んだ政治学・経済学の名著を輪読し内容について討論する。受講者は毎回、次回部分を予習（500～800字の日本語で要約、重要だと思った文章、心の残った文章を数か所抜き書き）して授業にのぞみ、授業では、教員がその部分の内容をかみくだいて説明する。社会科学の日本語を学ぶことで、日本語の専門的な研究書を読解するための日本語力を習得すること、社会科学をめぐる基礎知識を取得することを目的とする。	
	日本の政治・経済・社会 B	近代日本が生んだ文化人類学・民俗学の代表的な著作を輪読し内容について討論する。受講者は毎回、次回部分を予習（500～800字の日本語で要約、重要だと思った文章、心の残った文章を数か所抜き書き）して授業にのぞみ、授業では、教員がその部分の内容をかみくだいて説明する。社会科学の日本語を学ぶことで、日本語の専門的な研究書を読解するための日本語力を習得すること、社会科学をめぐる基礎知識を取得することを目的とする。	
	日本の文化・芸術 A	この授業では、色々な切り口から「日本の文化」について考える。社会とライフスタイルに関するトピックを中心に、「日本文化」とは何なのか、その特徴や時代による変化、それが与える影響などについて考える。日本の文化に関する理解を深め、広い視点から考える力を身につける、様々な文化のあり方を理解できることを目的とする。トピックに関する講義と、それに関するディスカッションを行う。授業への積極的な参加を期待する。	
	日本の文化・芸術 B	この授業では、色々な切り口から「日本の文化」について考える。「日本の文化・芸術 A」からさらに発展させ、社会とライフスタイルに関するトピックを中心に取り上げながらも、「日本文化」とは何なのか、その特徴や時代による変化、それが与える影響などについて、より考察を深める。日本の文化に関する理解を深め、広い視点から考える力を身につける、様々な文化のあり方を理解できることを目的とする。トピックに関する講義と、それに関するディスカッションを行う。授業への積極的な参加を期待する。	
	日本の歴史 A	古代から近世に至るまでの日本の歴史を、主な歴史的出来事や人物に焦点を当てながら紹介する。世界の中における日本という視点から、当時の日本社会について年代順に理解を深める。近世までの日本の歴史の流れを理解することが出来ること、当時の社会を形作った重要な出来事や思想、そしてその影響について理解を深めることが出来ることを目標とする。基本的に講義形式で行うが、簡単なディスカッションも含まれる場合がある。	
	日本の歴史 B	古代から近現代までの日本の歴史を、主な歴史的出来事や人物に焦点を当てながら「日本の歴史 A」では取り上げられなかった出来事や人物を紹介し、さらに日本の歴史について理解を深める。世界の中における日本という視点から、当時の日本社会について年代順に理解を深める。日本の歴史の流れを理解することが出来ること、当時の社会を形作った重要な出来事や思想、そしてその影響について理解を深めることが出来ることを目標とする。基本的に講義形式で行うが、簡単なディスカッションも含まれる場合がある。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
内容 コース	現代日本の諸相A	現代の日本社会に見られる様々な社会現象や問題を学生に紹介し、それらについて、読解やディスカッションをもとに、日本人の視点だけでなく外国人の視点も加えた、多角的な観点で考察する。現代日本社会が直面する重要な問題に意見できるようになることを目的とする。授業は英語を使用して行う。	
	現代日本の諸相B	「現代日本の諸相A」で紹介したトピックに加え、現代の日本社会に見られる様々な社会現象や問題を学生に紹介し、それらについて、読解やディスカッションをもとに、日本人の視点だけでなく外国人の視点も加えた、多角的な観点で考察する。現代日本社会が直面する重要な問題に意見できるようになることを目的とする。授業は英語を使用して行う。	
言語 コース (発展)	理解とコミュニケーションA	大学の授業で発表をしたり、質問や意見を述べたりするために必要な基礎力を身につけ、日常生活でのコミュニケーション能力を上げる。そのために、新聞や雑誌等日本語で書かれたものを読み解く練習や、大学の授業での教員の講義や学生の発表の聞き取り、日常生活の様々な場面でのアナウンスや会話、書かれたもの等、生教材をもとに学習し練習する。本授業ではスピーチを主とし、多くの課題の発表に結びつけたペアワークやグループワークの活動に重きを置く。大学の授業で必要な、学生、教員間での聴解、読解、要約、ペアワーク、グループ学習、発表、発表を聞いて意見を言う、討論等のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。	
	理解とコミュニケーションB	大学の授業で発表をしたり、質問や意見を述べたりするために必要な基礎力を身につけ、日常生活でのコミュニケーション能力を上げる。そのために、新聞や雑誌等日本語で書かれたものを読み解く練習や、大学の授業での教員の講義や学生の発表の聞き取り、日常生活の様々な場面でのアナウンスや会話、書かれたもの等、生教材をもとに学習し練習する。本授業ではプレゼンテーションを主とし、自分で決めたテーマの研究発表に結びつけた文献調査や質問紙調査、データ収集、分析、まとめの活動に重きを置く。研究発表のために必要な聴解、読解、要約、ペアワーク、グループ学習、発表、発表を聞いて意見を述べる、討論等のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。	
	資料・文献読解A	日本語の文章の構造を意識しながら読むことを学ぶ。そのために、文章についての自分なりの「問い」を立て、その答えを探しながら読むための読み方(ストラテジー)を、クラスで話し合いながら練習する。特に、著者の主張が比較的分かりやすい短めの文章を使って、自分の読み方を意識する。文章の構造を読みとりながら内容を読み進めるストラテジーを身につけること、語彙や表現などの資料や文献の読解に必要な知識を増やすことを目的とする。	
	資料・文献読解B	日本語の文章の構造を意識しながら読むことを学ぶ。そのために、文章についての自分なりの「問い」を立て、その答えを探しながら読むための読み方(ストラテジー)を、クラスで話し合いながら練習する。特に、著者が主張を構成的に組み立てている比較的長めの文章を使って、自分の読み方を意識する。文章の構造を読みとりながら内容を読み進めるストラテジーを身につけること、語彙や表現などの資料や文献の読解に必要な知識を増やすことを目的とする。	
	日本語文章表現A	大学生として、また卒業後、社会で活躍するため、最低限身につけておかなければならない基礎的な日本語力およびレポートや小論文の書き方を養うことを目標とする。演習では毎回、テキストおよび毎回配付するプリント(漢字を含む)の練習問題を通して基礎力のアップを図っていく。また、原稿用紙等を書く作業を通して文章力アップを目指す。基本的な敬語を意識して使えるようになること、話し言葉と書き言葉を区別できるようになること、意見文を書けるようになることを目的とする。	
	日本語文章表現B	大学の授業等で使われる文章表現を学習し、レポート、論文作成に必要なアカデミックリテラシー(読み書き能力)を身につける。前半の回では演習方式で様々な種類の文章を書く練習をし、後半の回でレポートの書き方を実際にレポート作成を通して学ぶ。レポート・論文作成に必要なアカデミックライティングの能力を習得すること、大学生として適切な語彙、文型を拡充することを目的とする。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。